

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 マネジメント委員会	401 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。	1.学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。		大学全体 （学部）	教育の理念と目的に基づき、授与する学位ごとに学位授与方針を設定している。 各学位授与方針においては、当該課程修了にあたって、学生が修得すべき知識、技能及び態度等について、4つのカテゴリーに区分して、授与する学位にふさわしい、具体的な学修成果を明示している。 また、教育の理念と目的に基づき、学位授与方針と関連し、授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針を設定している。 各教育課程の編成・実施方針には、学位授与方針と関連し、学修成果を達成するために必要な教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、教育・学習の方法としての授業形態等、教育についての基本的な考え方を明確に示している。
					大学全体 （研究科）	教育の理念と目的に基づき、授与する学位ごとに学位授与方針を設定している。 各学位授与方針においては、当該課程修了にあたって、学生が修得すべき知識、技能及び態度等について、3つのカテゴリーに区分して、授与する学位にふさわしい、具体的な学修成果を明示している。 また、教育の理念と目的に基づき、学位授与方針と関連し、授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針を設定している。 各教育課程の編成・実施方針には、学位授与方針と関連し、学修成果を達成するために必要な教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、教育・学習の方法としての授業形態等、教育についての基本的な考え方を明確に示している。
			2.上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。		大学全体 （学部）	各学修成果は、当該課程における学問分野の特性を踏まえ、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に基づく体系的・順次的な教育課程によって達成できるものを4つのカテゴリーで区分して設定し、授与する学位にふさわしいものとなっている。
					大学全体 （研究科）	各学修成果は、当該課程における学問分野の特性を踏まえ、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に基づく体系的・順次的な教育課程によって達成できるものを3つのカテゴリーで区分して設定し、授与する学位にふさわしいものとなっている。
		402 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	1.学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講しているか。	神学部	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき4つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。 神学部の授業内容は、キリスト教神学の4つの部門である聖書学、歴史神学、組織神学、実践神学を幅広く、また深く学ぶことができるように構成されている。具体的には、1・2年次向けの「専門基本科目」の他に、「古典語学・外書講読科目」「聖書学科目」「歴史神学科目」「組織神学科目」「実践神学科目」「キリスト教人文学科目」という諸分野にわたりて、各自のレベルに応じてさまざまな科目を履修できる科目編成になっており、専門分野の学問体系等に適った授業科目を開講している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4 教育・学習	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	402 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	1.学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講しているか。	外国語学部	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき4つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。 外国語学部では、「言語科学」「文学・芸術」「グローバル・コミュニケーション・スタディーズ」「英語総合研究」「フランス語総合研究」の5つの履修モデルに加え、2021年度には「日本語教員養成課程履修モデル」を策定した。これらのモデルはいずれも、学士（外国語学）としての学位の趣旨に沿って、言語・文学・文化・コミュニケーションの理論的体系と実践的応用をバランスよく学べるよう設計されている。 特に、外国語としての日本語教育を取り入れたことにより、言語相対主義的視点から言語・文化を捉え直す教育方針が一層強化された。各履修モデルは、学問分野の体系性を踏まえつつ、学部ディプロマ・ポリシーに対応する形で科目群が配置されており、学生の学修成果の質保証にも資する構造となっている。
					商学部	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき4つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。 2023年度から導入した新カリキュラムでは、主専攻制を導入し、各学科内のひとつのコースが提供する科目を重点的に履修する仕組みであり、主専攻以外でも自学科科目をより多く履修する仕組みとなっている。そうすることで、商学科の学生は商学科の専門科目を、経営学科の学生は経営学科の専門科目を中心的に履修する仕組みとしている。
					経済学部	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき4つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。 学問の体系及びそれぞれの科目群の特徴に配慮して教育課程を編成している。具体的には、経済学の体系に即して理論経済学部門、経済史部門、経済政策部門、国際経済部門、財政学・金融論部門、統計学部門、社会政策部門を配置している。
					法学部	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき4つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。 基礎から発展へという流れを意識し、一年次後期において憲法Ⅰ（総論・統治機構）、民法（総則）、二年次前期において刑法（総論）、憲法Ⅱ（基本的人権）、民法（契約法）など、基本法律科目を配置したうえで、三年次以降に、こうした基本法律科目を踏まえて発展となる科目（例えば刑事法系科目であれば、少年法、特別刑法）を配置している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4 教育・学習	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	402 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	1.学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講しているか。	児童教育学科	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき4つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。 教育・保育の理論的基礎、教育・保育の専門的事項、指導法、実習科目、探究・応用的位置づけの科目の順序で履修が為されるよう、「保育・福祉に関する科目群」、「教育・心理に関する科目群」、「教科学研究に関する科目群」において、順次性に配慮している。
					社会福祉学科	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき4つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。 社会福祉の専攻科目については理論や政策（ソーシャルポリシー）および実践（ソーシャルワーク）からなる専門分野の特性に基づき細分化した科目群（基本科目、専門領域科目、専門展開科目、方法技術科目、技術演習・実習科目など）を設定し、専門資格や将来の進路に対応した編成を行っている。
					心理学科	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき4つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。 専門分野の学問体系等に配慮して、教育課程を「演習・卒業論文に関する科目」「研究法に関する科目」「実験・実習に関する科目」「基礎専門に関する科目」「認知領域科目」「教育・発達領域科目」「社会・産業領域科目」「臨床領域科目」「文化・環境領域科目」「隣接領域科目」から編成している。
					国際文化学部	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき4つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。 国際文化学部では、1年次に世界各国の文化や芸術に関する基礎的な科目を開設しており、2年次からは「東洋文化系」「西洋文化系」「複合文化系」に分かれて各専門分野の導入・発展的な科目を配置している。3年次以降は「日本文化コース」「中国・アジア文化コース」「アメリカ・太平洋文化コース」「ヨーロッパ・地中海文化コース」「比較文化コース」「表象文化コース」の6コースに分かれ、在学生在が各コースで4クラスずつ開講される専門的なゼミを選択し、卒業までの指導を受ける。各年次では、1年次に「基礎演習」、2年次に「導入演習」、3年次に「専門演習」、4年次に「卒論演習」と順次的にレベルアップする演習科目を開設しており、それらの演習を中心としながら上記の6コースが各専門分野に関する講義科目を開講している。以上の科目群は、学部の学位授与方針で示した4つのカテゴリーと対応すると同時に、各専門分野の学問体系に適った科目として開設されている。
					大学全体 （研究科）	教育課程は、学位授与方針に明示する学生が修得すべき3つのカテゴリーの学修成果に対応した教育課程の編成・実施方針に基づき策定し、授業科目を開設しており、授与する学位と整合している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明
4	教育・学習 教育・学習 マネジメント委員会	402 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	1.学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標を明確にしているか。	大学全体（学部）	各授業科目については、カリキュラムマップにおいて、当該科目と学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針との関連を明示している。また、各授業科目の位置付けとして、学生便覧において、必修・選択必修等の区別を明示している。そのカリキュラムマップを踏まえ、各授業科目における到達目標については、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針との関連させて設定し、シラバスにおいて明示している。
					大学全体（研究科）	各授業科目については、カリキュラムマップにおいて、当該科目と学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針との関連を明示している。そのカリキュラムマップを踏まえ、各授業科目における到達目標については、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針との関連させて設定し、シラバスにおいて明示している。
					神学部	教育課程の編成・実施方針に基づき、基礎的科目、発展的科目、演習科目を開設するとともに、幅広い科目を開設することにより、教育課程を体系的に編成している。なお、2023年度新しくカリキュラムマップを適用開始した。 それによれば、1・2年次ではキリスト教神学の4部門の基礎や英語やドイツ語などの現代語学、ヘブライ語・ギリシャ語など古典語学の基礎を学び、3・4年次においてより専門性の高い科目を履修する。また、4年次においては、4年間の学びのまとめとして、各自が選んだテーマで卒業論文を執筆する。また、「2023年度神学部専攻科目時間割表」によって、それぞれの科目の履修年次や学期の配当が学生に明確にわかるようにしている。 学びの過程の可視化については、間接評価として質問紙やMoodleのフィードバック機能を活用し、直接評価としては随時の課題提出や発表、期末テストやレポートによって行っている。
					外国語学部	外国語学部では「英語研究科目群」、「フランス語研究科目群」、「グローバル・コミュニケーション・スタディーズ科目群」の三つの科目群を設けている。必修の「基礎演習」を1年次前期に履修することで、大学での学びの特徴や学修の姿勢を理解し、1年次後期の「導入演習」においては、自身の関心や将来設計に基づき、どのように履修を組み立てていくかを検討する機会としている。 2年次以降は、三つの科目群から一つを選択し、各群において「スキル科目」「専門基礎科目」「専門展開科目」の体系に基づき、語学力と専門知識のバランスを考慮しながら、基礎から応用へと段階的に履修できるように科目を配置している。 学びの過程の可視化については、各年次における履修モデルを学生便覧や学部ウェブサイト等で明示するとともに、進級時にはアカデミック・アドバイザーが個別に履修相談を行う体制を整えており、学生が自らの進捗状況や到達目標を把握しながら履修計画を立てられるようにしている。また、「導入演習」では、自身の学修履歴と将来像の接続を意識づける活動を通じて、キャリア形成と学びをつなぐ支援も行っている。 一方で科目群の整理について協議を行うなどの取り組みを行って入るが、科目間の関連性や学修の段階性をより視覚的・体系的に把握できる仕組みは現段階では十分とは言えず、今後は学びの過程をより明確に示すための図示やナビゲーション機能の充実、さらに演習科目を学修の集大成へと接続させる段階設計の明示といった可視化の工夫が求められる。現在の執行部では、この問題について10月ごろから検討を行う予定である。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明
4	教育・学習 マネジメント委員会	402 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	1.学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	③学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っているか。	商学部	学習の順次性については、教育課程の編成・実施方針に基づき、専攻科目では1年次には基礎商学や基礎経営学など入門的な内容の科目、2年次には会計学原理や経営管理論などの専門的な内容の科目、そして3年次以降ではグローバル・ビジネス事情やマーケティング戦略論などの応用的な内容の科目を配置している。そして演習科目では1年次には入門的な内容の基礎演習Ⅰ・Ⅱ、2年次には専門的な内容の演習Ⅰ・Ⅱ、3年次には応用的な内容の専門演習Ⅰ・Ⅱ、そして4年次には総合的な内容の卒業演習Ⅰ・Ⅱ、さらに卒業論文を配置している。 学びの過程については、全学的な取り組みとして、2023年度から学修ポートフォリオを導入している。学修ポートフォリオでは、成績、DP（ディプロマポリシー）観点別評価や履修情報などの学修履歴、課外活動や留学をはじめとした在学中の活動履歴、自らの学修目標や行動の振り返りなど、学生の学びの成果を総合的に蓄積したものである。学生が自ら学修方法や態度等を改善するための手段として、ポートフォリオを活用している。商学部独自の取り組みについては、2025年度に検討する。
					経済学部	教育課程の編成・実施方針に基づき、1～2年次に、「基礎演習Ⅰ」「経済学入門」「マクロ経済学Ⅰ」「ミクロ経済学Ⅰ」「基礎統計学」「世界と日本の経済」等の入門的・基礎的な内容の科目、2～3年次に「経済政策」「産業組織論」「日本経済史」「国際経済学」「世界経済論」「経済データ分析実習」等の専門的・応用的な内容の科目、3～4年次に「財政学」「国際金融論」「社会保障論」「演習Ⅰ」等の実践的・発展的な内容の科目、4年次に「演習・卒業論文」等の卒業論文や卒業研究といった最終的・統合的な内容の科目を配置し、順次性に配慮している。 学びの過程の可視化については、カリキュラムツリーおよび履修モデルを策定している。カリキュラムツリーは学科毎に策定し、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーとの関係を明示する形で学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当を行っている。授業科目の年次・学期配当をもとに、学科ごとに卒業要件内で履修可能な履修モデルを複数策定している。
					法学部	教育課程の編成・実施方針に基づき、1～2年次に、法律学習の基礎、法学概論、基礎演習といった「導入科目」等の入門的・基礎的な内容の科目、2～3年次に、憲法、民法、刑法、会社法、民事訴訟法、刑事訴訟法といったいわゆる「六法」科目や国際人権法、国際環境法、国際私法、国際取引法をはじめとする「専門基礎科目」、そして「専門演習Ⅰ・Ⅱ」等から成る「演習・実務関連科目」等の専門的・応用的な内容の科目、3～4年次に、金融法、企業取引法、租税法や国際商事仲裁、国際紛争解決法、国際知的財産法をはじめとする「専門展開科目」等の実践的・発展的な内容の科目、4年次に、卒業研究に相当する最終的・統合的な内容の科目（専門演習Ⅲおよび特別専門演習）を配置し、順次性及び体系性に配慮している。 学びの過程の可視化については、(1)授業中における小テストや中間テストによる学習成果の点数化、(2)添削済み自己答案と教員・他学生作成答案との比較による自己レベルの確認と改善点の明確化、(3)授業中における教員との質疑応答による、その場で学んだ知識の定着確認、(4)グループに分かれてのディスカッションや資料作成という協働活動を通じた、他学生との関係での自己レベルの客観視、(5)学生の国際商事模擬仲裁大会・交渉コンペティションや他大学との合同ゼミにおける他大学学生との関係での自己レベルの客観視、(6)学修ポートフォリオによる学生自らによる振り返り、などがある。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明
4	教育・学習 マネジメント委員会	402 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	1.学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	③学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っているか。	児童教育学科	カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを策定し、各科目のDPにおける位置づけを明確にするとともに、科目のナンバリングも策定し、学習の順次性に配慮し、体系化された新カリキュラムとなっている。 学びの過程の可視化については、上記の方針に基づき、学生便覧における履修モデル、特に、幼小教員免許や保育士資格の取得にあわせた履修計画の事例の提示、また、学修ポートフォリオならびに教職履修カルテの活用を行っている。
					社会福祉学科	教育課程の教育内容（科目）は各年次・学期配当による履修モデルを作成し、学生便覧などにより公開されている。2021年度にカリキュラムマップを作成し、2023年度からカリキュラムマップに基づく新たな教育課程を開始している。カリキュラムマップにおいては学習の順次性に配慮し、社会福祉の基盤となる基本科目や方法・技術科目、その上層に専門領域科目や専門展開科目、さらにその上層に技術演習・実習科目を配置した構造のなかそれぞれに該当する科目が配置されている。 学びの可視化の全学的な取り組みとして、2023年度から学修ポートフォリオを導入している。学修ポートフォリオでは、成績、DP（ディプロマポリシー）観点別評価や履修情報などの学修履歴、課外活動や留学をはじめとした在学中の活動履歴、自らの学修目標や行動の振り返りなど、学生の学びの成果を総合的に蓄積したものである。学生が自ら学修方法や態度等を改善するための手段として、ポートフォリオを活用している。 また、学科においては、ソーシャルワーク実習において、実習前に実習計画書を作成することにより目的を明確化し、実習中には考察や課題などを含めた実習記録を毎日記入し、実習指導者からのコメントを受けている。また、帰校日には、担当教員が実習記録および帰校日記録を確認し、適宜対面による指導を行なっている。実習終了後には実習評価表を作成し、担当教員との面談を行い丁寧な振り返りを行なっている。このように、実習における学びの過程の振り返り、および可視化を幾重にも丁寧に行なっている。それ以外にも、基礎演習およびソーシャルワーク演習(I～V)、およびソーシャルワーク実習指導(I～IV)の一部では、全クラス統一のワークシート等を導入し、毎回の授業において取り組む各テーマに各自の学修状況を記録として残し、どのような学びを経ているかを可視化することができている。
					心理学科	基礎から専門への移行するバランスのとれたカリキュラム構成により、演習・論文に関する科目、社会調査や分析技法に関する専門的知識科目、専門科目のそれぞれが、1年次より順次基礎から開講され、学年が上がるに従って、より高度な内容が学べるように、カリキュラムが組まれている。 学びの過程の可視化については、2022年度に策定したカリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリングが既に適用されており、前述の科目間の学習順序性、関連性、ならびに履修レベルや学年・学期配当を学生が把握できるようにしている。
					国際文化学部	国際文化学部の基幹科目である演習科目は、1年次から4年次まで「基礎演習」「導入演習」「専門演習」「卒論演習」と順次的に配置されている。講義科目については、上記の3つの系と6つのコース毎に各専門分野の授業が開設されており、1年次はオムニバス形式の「文化コース基礎論」を、2年次以降は各種の専門的な科目群を配置することで、段階的に学修する編成となっている。加えて、各種の専門分野で必要となる外国語については、1年次に共通科目の外国語で基礎的な学修を行った後、2年次以降はより専門的な外国語能力が段階的に身につくように「専門外国語」を開設している。 学びの過程の可視化については、国際文化学部のカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーで行っており、前者では授業科目の年次及び学期の配当を、後者では各授業科目間の相互関係や履修順序を明示している。また、それらの概要をまとめた「国際文化学科/4年間の学びのステップ」と「国際文化学科履修モデル」によって、演習科目・専門科目・外国語科目の関係を、順次的かつ体系的に明確化している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4 教育・学習	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	402 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	1.学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	③学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っているか。	大学全体（研究科）	博士前期課程・修士課程全体の三つのポリシー及び博士後期課程全体の3つのポリシーを踏まえ、各研究科・専攻が開設する授業科目をコースワーク科目、リサーチワーク科目に分類し、学習の順次性に配慮した年次・学期を設定のうえ、授業科目を開設しており、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育を実施している。
					法学研究科	学びの過程の可視化については、研究発表、論文構想発表会、研究指導計画書、研究指導報告書等によって行っている。
					経営学研究科	学びの過程の可視化については、シラバスに従った授業計画のもと課題提示とそれに対するフィードバックを行い単位認定・成績評価を行っている。1年生については経営学研究科全担当教員出席のもと新入生オリエンテーション（4月）を実施し、各担当教員と科目内容を口頭でも簡単に紹介し、時間割の調整も行いながら体系的な履修となるように指導している。また修士論文審査ではガイドラインに従って、2年生については論文審査委員3名の選任（4月）、中間報告会（7月）、中間審査（10月、11月）、最終審査（2月）を行い、1年生については研究指導計画書の作成・確認（4月）、研究指導報告書の作成（3月）を行っている。
					外国語学研究科	学びの過程の可視化については、研究発表、筆記による客観テスト、論文構想発表会、研究指導計画書、研究指導報告書等によって行っている。
					文学研究科 英文学専攻	学びの過程の可視化については、研究発表、筆記による客観テスト、論文構想発表会、研究指導計画書、研究指導報告書等によって行っている。
					文学研究科 フランス文学専攻	学びの過程の可視化については、研究発表、筆記による客観テスト、論文構想発表会、研究指導計画書、研究指導報告書等によって行っている。
					経済学研究科	学びの過程の可視化については、カリキュラムレベルにおいては、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、そして履修モデルによって学習の順次性及び体系性を示すことで、学生の効果的な履修を促している。授業科目レベルでは、講義ごとに講義要綱（シラバス）で授業内容を周知するとともに、シラバス内の項目「到達目標」において授業で達成しようとする目標を明確に伝え、項目「事前・事後学習」において具体的な事前・事後学習の内容や時間を知らせることにより、学びの過程を可視化している。さらに修士論文中間報告（論文構想発表会）、修士論文事前面接試験、研究指導計画書、研究指導報告書等によって学びの過程を可視化している。
					神学研究科	学びの過程の可視化については、研究発表、筆記による客観テスト、論文構想発表会、論文中間発表会、論文発表会、研究指導計画書、研究指導報告書等によって行っている。
					人間学研究科 人間学専攻	学びの過程の可視化については、カリキュラムツリーや履修モデルの提示、研究発表、筆記による客観テスト、論文構想発表会、研究指導計画書、研究指導報告書等によって行っている。
					人間学研究科 臨床心理学専攻	学びの過程の可視化として、昨年度に続き、カリキュラムツリーと履修モデルを作成しており、特に履修モデルについては、臨床心理士と公認心理師の両方の受験資格を得る場合、臨床心理士のみ受験資格をとる場合の2つを提示している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習	402 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	1.学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	③学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っているか。	国際文化研究科	国際文化研究科における学びの過程の可視化は、本研究科のディプロマ・ポリシーに沿って、年次を追って国際文化研究に関する専門的知識が深まり、国際文化的課題についての思考力が高まるよう、研究発表、論文構想発表、研究指導計画書、研究指導報告書等によって行っている。とくに指導教員と大学院生の連携により記される研究指導計画書と報告書は、カリキュラム・ポリシーに沿って配置された各科目を、大学院生が各自の専門的研究の深化と連動するかたちで履修していることを示すものである。また、学位取得へ向けた大学院生の研究が年次を追って発展するよう、本研究科には各大学院生の専修科目が設定され、それが指導教員の指導の下で計画的に履修される指導要領が設けられている。長期履修希望者に演習科目を2年次から履修させる指導要領も、学びの専門性が順次深まることを示している。
				④学生の学習時間を考慮し、それを踏まえた授業期間及び単位を設定しているか。	大学全体（学部）	学則及び履修規程において定める単位制度に則り、授業時間数や事前事後の学習時間をふまえ、授業科目の単位を設定している。また、「教育の質的転換への対応」の観点から、より柔軟かつ多様な授業設計が可能となるよう、授業時間を100分とし、授業期間を半期14週としている。
					大学全体（研究科）	学則及び履修規程において定める単位制度に則り、授業時間数や事前事後の学習時間をふまえ、授業科目の単位を設定している。また、「教育の質的転換への対応」の観点から、より柔軟かつ多様な授業設計が可能となるよう、授業時間を100分とし、授業期間を半期14週としている。
		403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	1.授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。		神学部	教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果及び教育課程の編成・実施方針に応じ、知識の理解を目的とする教育内容は講義形式、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は演習形式、理論的な知識及び技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は実習形式及び実践形式といった授業形態・授業方法を採用している。また、学問分野の特性等に応じ、演習科目や実習科目を中心に、学生が主体的に関与するディスカッションやディベート、グループワーク、ロールプレイといったアクティブ・ラーニングの手法を採り、修得した知識・技能等の転移を図る授業内容及び教育方法を展開している。これにより、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を保っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。 授業内外の学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うために、第一に講義時間外に取り組む課題を用意し、学生に対して復習を通じた知識・理解の定着の機会を提供している。第二に、図書館のセミナーを紹介する等、各種の学習支援ツールと人的なサポートを紹介し、その活用を奨励している。またSAを設定して、いくつかの科目においては授業時間外もサポートしている。第三に、神学と関連する外部団体における研修会等への参加を奨励し、参加費支援などを行っている。また、研修を引き受けていただく教会などとの懇談会、外部講師との話し合いを、それぞれ年1回ずつ実施している。第四に卒業生を講師に招いた就職説明会によって、四年間の学びと生活の連動について意識づけを行っている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	1.授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。	外国語学部	教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果、ならびに教育課程の編成・実施方針に応じて、知識の理解を目的とする教育内容には講義形式、態度・志向性および技能の修得を目的とする内容には演習形式、理論的知識と技能を実務に応用する能力の養成を目的とする内容には実習・実践形式の授業を採用している。また、学問分野の特性に応じ、アクティブ・ラーニング（ディスカッション、ディベート、グループワーク、ロールプレイ等）の手法を導入することで、修得した知識・技能の転移を促す教育方法を展開している。これらの取り組みにより、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を維持している（2024年度前期学修に関するアンケート）。 外国語学部では、少人数教育による質の高い授業の維持を重視し、1年次前期に15名規模の「基礎演習」を配置している。その担当教員が2年間にわたりアカデミック・アドバイザーを兼ねる体制をとることで、継続的な学修支援を可能としている。履修指導は年度開始時だけでなく、年度末にもガイダンスや面談を実施し、学生の主体的な学習姿勢の醸成を図っている。さらに、3年次以降の必修科目「演習Ⅰ」では、担当教員が学習アドバイザーとして学生と必要に応じて面談を行い、学修の深化と将来設計への接続を支援している。これらの体制を通じて、授業内外における学生の学びを活性化させる取り組みが学部全体で組織的に実施されている。
				商学部	教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果及び教育課程の編成・実施方針に応じ、知識の理解を目的とする教育内容は講義形式、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は演習形式、理論的な知識及び技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は実習形式及び実践形式といった授業形態・授業方法を採用している。また、学問分野の特性等に応じ、演習科目や実習科目を中心に、学生が主体的に関与するディスカッションやディベート、グループワーク、ロールプレイといったアクティブ・ラーニングの手法を採り、修得した知識・技能等の転移を図る授業内容及び教育方法を展開している。これにより、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を保っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。 授業形態や授業方法が教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果に応じたものとなるよう、各授業科目はDPに関連してその到達目標や授業実施方法を定めており、授業科目の到達目標の達成度について商学部の学生の80%は、肯定的に捉えている。また教育課程の編成・実施方針に応じたものとなるよう、1年次に必修科目である基礎演習Ⅰ・Ⅱを開講し、2年次以降専攻科目や演習を学習するうえで必要なリテラシーについて、学生が少人数で学ぶ機会を確保し、少人数での学習は2年次の演習Ⅰ・Ⅱから3年次の専門演習Ⅰ・Ⅱ、そして4年次の卒論演習Ⅰ・Ⅱまで引き継がれ、専任教員により個々の学生の習熟度に応じた指導が行われている。学位課程の集大成としての「卒業論文」についても、必修ではないものの、直近の卒業生では商学科が66.2%、経営学科が69.8%修得しており、期待した効果を生んでいる（2025年度商学部教学IR定型レポート）。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	1.授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。	経済学部	教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果及び教育課程の編成・実施方針に応じ、知識の理解を目的とする教育内容は講義形式、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は演習形式、理論的な知識及び技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は実習形式及び実践形式といった授業形態・授業方法を採用している。また、学問分野の特性等に応じ、演習科目や実習科目を中心に、学生が主体的に関与するディスカッションやディベート、グループワーク、ロールプレイといったアクティブ・ラーニングの手法を採り、修得した知識・技能等の転移を図る授業内容及び教育方法を展開している。これにより、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を保っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。
				法学部	教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果及び教育課程の編成・実施方針に応じ、知識の理解を目的とする教育内容は講義形式、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は演習形式、理論的な知識及び技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は実習形式及び実践形式といった授業形態・授業方法を採用している。また、学問分野の特性等に応じ、演習科目や実習科目を中心に、学生が主体的に関与するディスカッションやディベート、グループワーク、ロールプレイといったアクティブ・ラーニングの手法を採り、修得した知識・技能等の転移を図る授業内容及び教育方法を展開している。これにより、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を保っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	1.授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。	児童教育学科	教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果及び教育課程の編成・実施方針に応じ、知識の理解を目的とする教育内容は講義形式、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は演習形式、理論的な知識及び技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は実習形式及び実践形式といった授業形態・授業方法を採用している。また、学問分野の特性等に応じ、演習科目や実習科目を中心に、学生が主体的に関与するディスカッションやディベート、グループワーク、ロールプレイといったアクティブ・ラーニングの手法を採り、修得した知識・技能等の転移を図る授業内容及び教育方法を展開している。これにより、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を保っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。 日常の教育活動での資料配付や連絡を容易にするため、1年次基礎科目から3、4年次の演習、卒業論文の指導についてもmoodleの使用を各教員が目的に沿って行っている。また、教育推進プログラムでのデジタル教科書購入、3号館403教室と図書館グループ学習室へのインストールにより、学生の授業実践に関する自主練習が可能になるよう、整備している。演習ではディスカッションによるアクティブ・ラーニングを実施しており、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を保っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。
				社会福祉学科	教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果及び教育課程の編成・実施方針に応じ、知識の理解を目的とする教育内容は講義形式、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は演習形式、理論的な知識及び技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は実習形式及び実践形式といった授業形態・授業方法を採用している。また、学問分野の特性等に応じ、演習科目や実習科目を中心に、学生が主体的に関与するディスカッションやディベート、グループワーク、ロールプレイといったアクティブ・ラーニングの手法を採り、修得した知識・技能等の転移を図る授業内容及び教育方法を展開している。これにより、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を保っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。 学部教育推進プログラムの予算を用いて、2年次から3年次で開講される「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク実習指導」など上級生からの下級生に対する助言が得られるSA、実践家を招聘しての学習などを取り入れ（教育推進プログラム正課枠の予算による）、また、正規の授業とは別に地域や海外に出向いての体験的学習（教育推進プログラム準正課枠の予算による）を実施し一定の効果が得られている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 マネジメント委員会	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	1.授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。	心理学科	教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果及び教育課程の編成・実施方針に応じ、知識の理解を目的とする教育内容は講義形式、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は演習形式、理論的な知識及び技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は実習形式及び実践形式といった授業形態・授業方法を採用している。また、学問分野の特性等に応じ、演習科目や実習科目を中心に、学生が主体的に関与するディスカッションやディベート、グループワーク、ロールプレイといったアクティブ・ラーニングの手法を採り、修得した知識・技能等の転移を図る授業内容及び教育方法を展開している。これにより、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を保っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。 授業内外の学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うために、以下の取り組みを行っている。 (1)ゼミでの研究や卒業研究を行うための資料を心理学科内HPに掲載 (2)全学年の学生の心理学実験を可能とするシステム（ソナシステム）の採用 (3)心理学検定受検料の補助 (4)チューデントアシスタントの活用 (5)授業でのゲストスピーカーの招聘 (6)学外の専門家による講演会の実施
				国際文化学部	教育研究上の目的や課程修了時に求める学修成果及び教育課程の編成・実施方針に応じ、知識の理解を目的とする教育内容は講義形式、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容は演習形式、理論的な知識及び技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は実習形式及び実践形式といった授業形態・授業方法を採用している。また、学問分野の特性等に応じ、演習科目や実習科目を中心に、学生が主体的に関与するディスカッションやディベート、グループワーク、ロールプレイといったアクティブ・ラーニングの手法を採り、修得した知識・技能等の転移を図る授業内容及び教育方法を展開している。これにより、授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生は83%と高い水準を保っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。 国際文化学部では「教育の理念」として、地域社会及び国内外の諸課題に主体的に参画、貢献できる人物の育成を目的としており、特に1年次から4年次まで開講している演習形式の科目は、グループワークやディスカッションを通じて、学生の主体的な問題意識を涵養する基幹科目として位置づけている。演習科目の定員について、1年次の「基礎演習」と2年次の「導入演習」は「入学者÷10（小数点以下切捨）」を原則とし、20名前後を上限とする。一方、3年次の「専門演習」と4年次の「卒論演習」は合同ゼミ形式で開設しており、3年次と4年次の定員はそれぞれ10名前後を上限とする。これらの科目では、担当教員による細やかな研究指導を特徴としており、演習での学びをさらに専門的な観点から発展させるために、講義形式の科目を配置している。1年次を対象とした「文化論部門」の講義科目では「文化コース基礎論」を開講し、2年次以降の「系・コース専攻部門」の講義科目では、6コースがさらに専門的な科目群を提供している。また、同じ2年次からは「専門外国語部門」の講義科目を設置して外国語の文献読解能力を養成するとともに、「学部共通部門」の講義科目では、所属する系やコースにかかわらず履修できる授業を配置し、個別の専門領域に閉じることなく、幅広い視野から演習科目での学びが展開できるように科目群が編成・実施されている。これにより、国際文化学部で授業科目の到達目標の達成度を肯定的に捉えている学生の割合は87%となっており、大学全体の平均値を上回っている（2024年度前期学修に関するアンケート）。
				法学研究科	毎年度当初に、教員と在学生も参加して行う新入生への説明会で、学生の履修希望を確認しながら、各授業科目の開講時間割を調整している。研究指導計画書に従い指導を実施するとともに、大学院生に適切な研究会や学会への参加を促している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 教育マネジメント委員会	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	1.授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。	経営学研究科	修士論文の中間報告会を（論文構想発表会）を7月に対面で実施し、多くの教員から様々な質問や意見、アドバイスがなされている。特に、副査の担当者からは、積極的に院生とコミュニケーションを図るための質疑応答がなされ、修論執筆に対して効果的な教育が行われ、修論審査の円滑化にも寄与するとともに、1年生も参加することで修論執筆に向けた良い動議づけとなっている。加えて、修士論文の完成度を高めるために、主査と副査2人による修士論文の中間審査を2年次の10月から11月にかけて実施し、修士論文の改善策を具体的に指導している。履修者はその指導に基づいて修士論文を書き進め、より水準の高い修士論文を最終的に提出できるように配慮している。
				外国語学研究科	外国語学研究科では、年度当初に新入生、在学生、全教員の参加するオリエンテーションを開催し、グローバル・コミュニケーション学、言語科学、文学・文化のそれぞれのプログラムにおいて、個々の学生が基礎となる共通科目から専門科目へと体系的に履修できるよう、学生の希望を確認しつつ履修指導および時間割調整を実施している。また1年次から修士論文・博士論文発表会参加を促し、主体的に研究課題に取り組む動機づけと活性化を行っている。全体として、学生が少人数という利点を生かし、個々の教員が個々の学生の進路希望に応じた密な指導を行なっている。
				文学研究科 英文学専攻	文学研究科英文学専攻では、修士論文作成に関して、秋に「中間発表会」を開催し、在学生・教員による質疑応答を行うことによって、論文の完成度を高めるよう努めている。春には、修士論文および博士論文の英文・仏文合同研究発表会である「第4回文学研究科研究発表会」が開催されたが、2024年度は残念ながら英文学専攻の学生は就職の都合等で参加できなかった。
				文学研究科 フランス文学専攻	文学研究科フランス文学専攻では、毎年、夏、学生と教員による研究発表会を行い、学生の積極的な学習活動を促している。2024年7月21日「福大・西南合同大学院生発表会」（ハイフレックス）、および、2025年2月27日「第4回文学研究科研究発表会」（ハイフレックス）を学外の研究者、学生へもHP上で呼びかけて行った。これにより、大学内外、授業内外の学生たちが相互に刺激をうけ、学習の活性化につながった。フランス文学専攻の博士後期課程に、本学とルーヴアン・カトリック大学との協定に基づくダブル・ディグリーを獲得する学生が出た。
				経済学研究科	科目あたりの学生数が少ないことを活かし、演習など少人数型および双方向型の授業形態では指導方針や研究方法などを丁寧に指導している。また多くの教員の意見に触れて論文の内容をより豊かにする機会を設けるために、修士論文中間報告会や修士論文事前面接試問を実施している。中間報告会には多くの教員が参加し、学生も修士論文構想において多くの知見を得た。また複数の教員による事前面接試問を通じて、形式面を中心に改善が行われた。
				神学研究科	授業内外の学生の学習活性化の一助として、学内では学内開催の諸行事、神学部主催シンポジウム、神学部チャペルにおける外部講師の学術講演、学術研究所共催の学術講演会への参加を積極的に進めている。またオムニバス授業を通して、他の神学分野にふれさせることで、バランスのとれた学問的視野が育ってきている。5月末の論文構想発表会、10月半ばの論文中間発表会、1月末に論文発表会を開催し、発表者は意欲的かつ効果的に研究を進めている。学外では、日本バプテスト連盟主催の諸集会や研修会、国内の神学教育機関主催の交流プログラムの参加を積極的に促し、講義での学習と実践を連携させている結果、学生の研究に広がりや深まりが見られる。また、全国学会、地区学会への参加を促し、研究者志望の学生には研究発表を勧めている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 教育・マネジメント委員会	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	1.授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。	人間科学研究科 人間科学専攻	必修科目において研究倫理の指導を行い、研究前の倫理審査義務の指導および倫理審査手続きのシステム化を図り、4月より運用している。倫理審査はすべての院生の研究開始時に行っており、倫理審査の重要性について理解が深まっている。 集中講義については、開講されるかどうかの時期がはっきりせずに履修希望をとっていたが、2024年度から集中講義の開講時期を先に提示することによって、履修がしやすくなった。 例年同様に、研究科独自の研究奨励金（図書費・学会出張費・学会発表奨励費）の補助を行っているが、補助金の金額を増加した。修士論文及び博士論文の提出へのプロセスとして、今年度は2024年9月24日に中間発表会、2025年1月31日に構想発表会、2025年2月4日に最終発表会を開催し、それぞれの進捗状況を共有しつつ、個別指導にあたる体制を重視した。今年度も大学教員として就職する研究者を輩出することができ、研究科として一定の成果を上げることができたと考えている。
				人間科学研究科 臨床心理学専攻	必修科目において研究倫理の指導を行い、研究前の倫理審査義務の指導および倫理審査手続きのシステム化を図り、4月より運用している。倫理審査はすべての院生の研究開始時に行っており、倫理審査の重要性について理解が深まっている。 学生が、臨床心理士及び公認心理師の受験資格を得られるように、カリキュラムを構成している。また、学生が、指導・助言を受けることができるように、臨床心理基礎実習および臨床心理実習の授業の担当教員として、有資格（臨床心理士、公認心理師）の実務家6名を非常勤講師として加配している。修士論文の提出に向けて、修士1年の学生対象に2024年11月12日に「構想発表会」、修士2年生の学生対象に2024年7月23日に「中間発表会」を開催した。学生は、自分の研究の概要や進捗状況について発表し、専攻内の指導教員以外の教員から助言を受けることができた。期待された効果として、2024年度の修了生2名について、両名とも公認心理師試験に合格し、有資格者となった。
				国際文化研究科	国際文化研究科では、国際文化に関する専門的な知識を深め、個々の学生の文化に関する自立的な研究遂行能力を高めるという本研究科のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下のような教育上の施策を実施した。また、それが以下に示すような研究成果として表れている。①国際文化研究科では、新学期ガイダンスの際に教員が各科目の授業内容を詳細に説明するのみならず、開講曜限や研究方針についての個別相談にも応じている。これにより、大学院生にきめ細やかな教育が行き渡ることが期待される。②毎年秋に修士論文中間発表会を開催することにより、論文を執筆する大学院生に計画的な研究を促すとともに、博士前期課程初年次の大学院生にも学問的刺激を与える機会を提供している。2024年度は10月5日に実施し、研究科全体に参加を呼びかけ、6名の大学院生が発表を行った。③『西南学院大学大学院研究論集』をはじめ、学内の論文や紀要への積極的な投稿を促している。2024年度は、『大学院研究論集』第19号と第20号に本研究科大学院生による計9本の論文が掲載された。また、『西南学院大学博物館研究紀要』第13号には、本研究科大学院生の1本の論文が掲載された。さらに、『国際文化論集』第39巻には、国際文化研究科大学院生とその指導教員の共著による論文と研究資料が計2本掲載された。④学会や研究会、シンポジウムなどにおいて大学院生に研究発表をさせたり、スタッフとして運営に参加させたりすることにより、実践面からも研究活動を活性化する工夫を行っている。2024年は、第72回九州中国学会、福岡日韓フォーラム第169回例会、第4回東アジア言語文化フォーラムで国際文化研究科の大学院生が研究発表を行い、これらの運営補助に従事した。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 (評価の視点)		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4 教育・学習	教学マネジメント委員会	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	2. I C Tを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。		大学全体 (学部)	ICTを利用した遠隔授業は、「西南学院大学における『多様なメディアを高度に利用して行う授業』の実施等に関する内規」、「西南学院大学における『面接授業の一部を遠隔授業によって実施する場合』に関する内規」等に基づき、適した授業科目に用いている。また、効果的な授業となるよう、質疑応答や意見交換等の双方向の意思疎通が担保されるよう機会と手段を採り入れている。
					大学全体 (研究科)	ICTを利用した遠隔授業は、「西南学院大学大学院における『多様なメディアを高度に利用して行う授業』の実施に関する内規」に基づき、また「西南学院大学における『面接授業の一部を遠隔授業によって実施する場合』に関する内規」の準用によって、適した授業科目に用いている。効果的な授業となるよう、質疑応答や意見交換等の双方向の意思疎通が担保されるよう機会と手段を採り入れている。
			3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	①学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応ができていないか。	神学部	学部では、1授業あたりの学生数について、専門演習等の科目を除く実験・実習・実技科目は施設・設備等の関係から制限を設けている。また、学科によって、法令等の規定がある場合等はそれに準拠し、その他では、各学位課程の特性や資格課程における授業内容や到達目標に沿う適切な学生数を設定し、運用している。共通科目の英語（実技科目）については、プレースメントテスト結果に基づきレベル別に、35名を上限として授業運営を行っている。さらに、2025年度からすべての言語において35名を上限として授業運営を行い、細やかな学習状況の把握・指導を行うこととしている。 神学部では、学部学生総数40数名で、どのクラスも少人数で行われている特殊性のため、学習状況に応じたクラス分けなどは行われていないが、要配慮学生への学習サポートなどは随時行われている。
					外国語学部	学部では、1授業あたりの学生数について、専門演習等の科目を除く実験・実習・実技科目は、施設・設備等の関係から制限を設けている。また、学科によって法令等の規定がある場合にはそれに準拠し、それ以外の場合には、各学位課程の特性や資格課程における授業内容・到達目標に沿った適切な学生数を設定し、運用している。共通科目の英語（実技科目）については、プレースメントテストの結果に基づきレベル別に編成し、1クラス35名を上限として授業運営を行っている。さらに、2025年度からはすべての言語において35名を上限として授業運営を行い、より細やかな学習状況の把握と指導を実現する方針である。 外国語学部では、学生の習熟度や学修ニーズに応じた柔軟な授業運営を重視しており、特に英語スキル科目（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）においては、入学時のプレースメントテストに基づき、習熟度別に30名程度のクラスを編成している。これにより、基礎的スキルの定着から応用的運用能力の強化まで、各学生のレベルに応じた学修支援が可能となっている。 しかしながら、すべてのクラスが適正な規模で運営されているわけではなく、一部には受講者数が多く、学修支援が行き届きにくい状況にあるクラスも存在している。 また、学修上の困難を抱える学生への対応として、1年次の「基礎演習」において担当教員がアカデミック・アドバイザーを兼任し、定期的な面談や履修指導を通じて、学修状況の把握と個別支援を行っている。 今後は、履修履歴・成績・出席状況等を活用した早期介入の仕組みを強化するとともに、留学生や多様な学修背景をもつ学生への支援体制を、学部全体としてより明確に位置づけていく必要があると認識している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	①学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応ができているか。	商学部	商学部では、演習科目等において、教育効果・学修効果の観点等から1クラスあたりの履修者数を定めて、適切に授業運営及び指導を行っている。学生の多様性に応じ、複数の基礎科目、応用科目を設置することで、体系的、段階的な教育体制を整備している。 共通科目の英語（実技科目）については、プレイスメントテスト結果に基づきレベル別に、35名を上限として授業運営を行っている。さらに、2025年度からすべての言語において35名を上限として授業運営を行い、細やかな学習状況の把握・指導を行うこととしている。 加えて一部の科目においては、当該科目を履修する前に単位を修得もしくは学修しておくべき推奨科目をシラバスにて明示し、学修状況に応じた教育効果・学習効果を得られるよう指導している。
					経済学部	経済学部では、1授業あたりの学生数について、専門演習等の科目を除く実験・実習・実技科目は施設・設備等の関係から制限を設けている。また、学科によって、法令等の規定がある場合等はそれに準拠し、その他では、各学位課程の特性や資格課程における授業内容や到達目標に沿う適切な学生数を設定し、運用している。共通科目の英語（実技科目）については、プレイスメントテスト結果に基づきレベル別に、35名を上限として授業運営を行っている。さらに、2025年度からすべての言語において35名を上限として授業運営を行い、細やかな学習状況の把握・指導を行うこととしている。 経済学部では、英語プレイスメントテスト結果に基づいて「経済英語Ⅰ」のクラス分けを実施し、学生の英語能力の多様性に応じた細やかな授業運営を行っている。なお入学時に実施する数学プレイスメントテストの結果に基づいて行う「経済学入門」のクラス分けについても行った。
					法学部	学部では、1授業あたりの学生数について、専門演習等の科目を除く実験・実習・実技科目は施設・設備等の関係から制限を設けている。また、学科によって、法令等の規定がある場合等はそれに準拠し、その他では、各学位課程の特性や資格課程における授業内容や到達目標に沿う適切な学生数を設定し、運用している。共通科目の英語（実技科目）については、プレイスメントテスト結果に基づきレベル別に、35名を上限として授業運営を行っている。さらに、2025年度からすべての言語において35名を上限として授業運営を行い、細やかな学習状況の把握・指導を行うこととしている。 法学部では、多人数になる法律学習の基礎や法学概論、そして民法や会社法等の各科目等では、2～3クラスに分けて、1授業あたりの学生数について配慮をしている。
					児童教育学科	学部では、1授業あたりの学生数について、専門演習等の科目を除く実験・実習・実技科目は施設・設備等の関係から制限を設けている。また、学科によって、法令等の規定がある場合等はそれに準拠し、その他では、各学位課程の特性や資格課程における授業内容や到達目標に沿う適切な学生数を設定し、運用している。共通科目の英語（実技科目）については、プレイスメントテスト結果に基づきレベル別に、35名を上限として授業運営を行っている。さらに、2025年度からすべての言語において35名を上限として授業運営を行い、細やかな学習状況の把握・指導を行うこととしている。 児童教育学科では、各教科指導法において、必要に応じてクラス分けを行い、少人数での模擬授業等に対応するようにしている。加えて、ピアノなどの実技関係の科目については、学生の技能レベルにあわせて、やはりクラス分けをし、指導するとともに、教育推進プログラムを活用しての器楽講座の開設などの取り組みなどを行っている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	①学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応ができているか。	社会福祉学科	学部では、1授業あたりの学生数について、専門演習等の科目を除く実験・実習・実技科目は施設・設備等の関係から制限を設けている。また、学科によって、法令等の規定がある場合等はそれに準拠し、その他では、各学位課程の特性や資格課程における授業内容や到達目標に沿う適切な学生数を設定し、運用している。共通科目の英語（実技科目）については、プレースメントテスト結果に基づきレベル別に、35名を上限として授業運営を行っている。さらに、2025年度からすべての言語において35名を上限として授業運営を行い、細やかな学習状況の把握・指導を行うこととしている。 社会福祉学科では、ソーシャルワーク関連の演習科目や実習科目等において、教育効果・学修効果の観点等から、かつ文部科学省、および厚生労働省の指針を参考に、1クラスあたりの履修者数を20名以下に定めて、適切に授業運営及び指導を行っている。学生の多様性や特性に対応し、学科主任や実習指導室主任等によって必要と判断された場合は適宜、履修クラスの調整等を行っている。
					心理学科	学部では、1授業あたりの学生数について、専門演習等の科目を除く実験・実習・実技科目は施設・設備等の関係から制限を設けている。また、学科によって、法令等の規定がある場合等はそれに準拠し、その他では、各学位課程の特性や資格課程における授業内容や到達目標に沿う適切な学生数を設定し、運用している。共通科目の英語（実技科目）については、プレースメントテスト結果に基づきレベル別に、35名を上限として授業運営を行っている。さらに、2025年度からすべての言語において35名を上限として授業運営を行い、細やかな学習状況の把握・指導を行うこととしている。 心理学科では、発達障害等をもつ学生に対し、試験内容の代替、提出期限延長、教室内座席の配慮など、多様な合理的配慮を提供し、学習機会を公平に保証している。また、一般企業での総合職を希望する学生、一般企業での臨床（対人支援）職を希望する学生、大学院進学（公認心理師）を希望する学生がいることを踏まえ、キャリア志向に応じた履修モデルを提供している。
					国際文化学部	学部では、1授業あたりの学生数について、専門演習等の科目を除く実験・実習・実技科目は施設・設備等の関係から制限を設けている。また、学科によって、法令等の規定がある場合等はそれに準拠し、その他では、各学位課程の特性や資格課程における授業内容や到達目標に沿う適切な学生数を設定し、運用している。共通科目の英語（実技科目）については、プレースメントテスト結果に基づきレベル別に、35名を上限として授業運営を行っている。さらに、2025年度からすべての言語において35名を上限として授業運営を行い、細やかな学習状況の把握・指導を行うこととしている。 国際文化学部では、基幹科目である演習科目に関して、学生の多様性や学習状況を踏まえたクラス分けを行っている。入学当初の1年次「基礎演習」については抽選でクラス分けを行っているが、2年次では「東洋文化系」「西洋文化系」「複合文化系」への振り分けと、各系で開講される「導入演習」のクラス分けの際に、1年次の成績（GPA）を用いた選考が行われる。ただし、この選考は卒業論文を執筆するゼミ（クラス）の最終決定を意味するわけではなく、在学生が学習状況を振り返り、自らを客観視する機会として位置づけられる。続く3年次に「専門演習」のクラス分けを行う際には、1～2年次の成績を踏まえた上で、各教員による書類選考と面接が行われ、学生の態度・志向性や今後の研究計画など、多角的な観点を踏まえたゼミ選考が行われる。また、4年次の「卒論演習」は個人研究の継続性という観点から3年次の「専門演習」と同じ教員のクラスとなるが、「専門演習」と「卒論演習」は合同ゼミ形式で開講されるため、各年度で受講生が変化し、多様な議論が生まれるように両科目が設計されている。なお、基本的に2年次に選択する系は変更できないが、3年次に最終的な担当教員のゼミを決める際には、学生が一定の条件（必要履修科目数の増加など）に同意する場合、系を変更してゼミの申し込みを行うことが可能となっている。それにより、学生の多様性を踏まえながら、教員が適切な研究指導を行い、なおかつ学生が意欲的かつ効果的に学習できる教育環境を整えている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	大学全体 （研究科）	研究科では、学部と比較し学生数が少ないことを活かし、学生の多様な状況に応じたクラス設定及び学修指導を行っている。研究科・専攻によっては、担当教員一人あたりの学生数が少ない状況を活かし、指導教員だけでなく、有志の教員も含めた複数の教員とともに学生の研究活動を支援している。
				大学全体 （学部）	履修規程において年次別履修単位数を定め、1年間に履修登録可能な単位数の上限を設定している。また、シラバスに、事前・事後学修の内容やその必要時間数を明記し、単位の実質化を図るための措置をとっている。
				大学全体 （研究科）	履修単位数の上限を半期10単位とし、1年間に履修登録可能な単位数の上限を設定している。また、学生が主体的に学ぶ意志がある場合や、資格取得に必要な場合は、指導教員の許可を得た上で、上限を超える履修登録ができる制度を整備している。
				大学全体 （学部）	シラバスに、授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等を明示している。作成の過程において、シラバスチェックリストに基づく確認期間を設定し、学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容となっているか、各担当教員が複数回確認する機会を設けている。完成したシラバスは、授業開始年度の前年度に、事前に開示している。また、授業内容がシラバスに沿ったものであったかについてアンケートを実施することにより、授業内容とシラバスとの整合性を確保している。
				大学全体 （研究科）	シラバスに、授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等を明示している。 また、研究科長、専攻主任により各授業科目の内容とシラバスの整合性を確認している。シラバスの記載内容が不十分、誤字や脱字がある場合は担当者に修正を依頼し、シラバスに授業内容をはじめ必要事項が適切に記述されていることを確認している。
			④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	神学部	授業の履修に関する指導として、4月入学時の新入生オリエンテーションにおいて履修登録までの相談機会を確保しているほか、神学部独自のオリエンテーションキャンプを行い、グループディスカッションを取り入れながら神学の学び方や履修モデルを示している。これらは、新入生がスムーズに授業をスタートすることに役立っている。 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認について、年1回定期的に開かれる学生とのカリキュラム懇談会を通して、カリキュラム内容や履修方法を確認し、学生の視点を取り入れて改善する機会を設けている。なお、実践神学分野は広範にわたるために、多くの外部講師に授業を依頼している。そこで年に1回実践神学担当者会を開催し、担当内容などを互いに調整している。そのほか、各科目における学習の理解度の確認については、毎回のクラス後の紙やMoodleのフィードバック機能を用いた質問・感想、学生との中間対話アンケート、オフィスアワーなどで行っている。 授業外学習に資するフィードバック等の措置として、第一に講義時間外に取り組む課題を用意し、学生に対して復習を通じた知識・理解の定着の機会を提供している。第二に、図書館のセミナーを紹介する等、各種の学習支援ツールと人的なサポートを紹介し、その活用を奨励している。またSAを設定して、いくつかの科目においては授業時間外もサポートしている。第三に、神学と関連する外部団体における研修会等への参加を奨励し、参加費支援などを行っている。また、研修を引き受けていただく教会などとの懇談会、外部講師との話し合いを、それぞれ年1回ずつ実施している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	外国語学部	授業の履修に関する指導として、在学生に対しては3月にMoodleを通じて履修ガイダンス資料を配信し、新入生に対しては4月の新入生オリエンテーション期間において対面での履修指導を実施している。履修指導資料は教務課のホームページでも常時公開しており、学生が必要に応じていつでも確認できる環境を整備している。また、1年次の「基礎演習」では、担当教員が2年間アカデミック・アドバイザーを兼任し、継続的な履修支援と学修相談に対応している。 学習の進捗状況や学生の理解度・達成度の確認については、定期試験に加えて、小テスト、課題提出、口頭発表、授業内活動の観察等を通じて多面的な評価を行っている。また、各科目での到達目標を明示し、成績評価の観点を学生に事前に伝えることで、学修目標への意識づけを図っている。さらに、学生自身が4年間の学修の足跡を可視化できるよう、履修モデルと進路情報を統合した「FastFacts」を作成・配布し、在学生および入学前の高校生に向けて学修の見通しを共有する取り組みも行っている。 授業外学習を支援するフィードバックの措置として、基礎演習の担当教員による日常的なコメント返却や個別面談、課題再提出の機会の提供などを通じて、学修の改善に向けた助言を行っている。加えて、3年次以降においては、必修科目「演習Ⅰ」の担当教員が学習アドバイザーとして、学生の研究活動や進路意識を踏まえた個別指導を行っており、授業内外を通じて学修の質の向上を図っている。
					商学部	授業の履修に関する指導として、1年生向けにはオリエンテーション期間中に全学生を対象に対面での履修指導を行うとともに、2、3年生にも新年度の履修登録前にMoodleにてオンディマンド型の履修指導を行っている。1年生が前期に履修する必修科目である基礎演習Ⅰでも、全学生に対面での履修指導を実施している。また商学部が活動を支援している商学部ゼミナール連合会も学生の自主的な活動としてゼミ紹介誌を作成しており、学生が適切な履修を行うサポートをしている。基礎演習Ⅱでは各教員がゼミでの研究指導内容について資料を作成したり、学生の前で教員がゼミに関するプレゼンを実施している。 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認については、全学的な取り組みとして、2023年度から学修ポートフォリオを導入している。学修ポートフォリオでは、成績、DP（ディプロマポリシー）観点別評価や履修情報などの学修履歴、課外活動や留学をはじめとした在学中の活動履歴、自らの学修目標や行動の振り返りなど、学生の学びの成果を総合的に蓄積したものである。学習の進捗等の状況や学習の理解度・達成度を確認し、学生が自ら学修方法や態度等を改善するための手段として、ポートフォリオを活用している。 授業外学習に資するフィードバック等の措置としては、一部の科目（マーケティング戦略論や地域ビジネス論）において、moodleやgoogle formを活用し、課題に対するコメントの返却、フィードバック、ループリックによる評定等を実施している。また、講義中に行うミニッツペーパーやリアクションペーパーを通じた質問や意見に対する回答、コメントの返却等も行っている。加えて、ゼミにおいては授業外学習に対して少人数授業であることを活かした個別のフィードバックを行っている。2025年度は、このような取り組みの情報を学部全体で共有するFD活動を検討している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	経済学部	授業の履修に関する指導として、学生便覧において、「科目の分類と卒業要件」、「カリキュラムの概要」、「履修モデル」、「演習」、「外国語検定、キャリアのための資格」、「向学相談」等について解説し、自律的な学習姿勢や目的意識の重要性を踏まえて履修計画を立てるよう促している。また、在学生に対してはMoodleを通じて、新入生に対しては4月の新入生オリエンテーション期間において対面で履修指導を実施し、履修指導資料は教務課のホームページにおいて公開し、Moodleにおいて学生が常時確認できる環境を整備している。また「総合型入試（「学びと探究型」・「活動実績型」）」による入学生に対しては、入学時にオリエンテーションを実施した。加えて、2年次以上の学生に対しては、「演習Ⅰ」の募集にあたって、「演習紹介誌」PDFを学生に周知することによって、ゼミの履修指導を行っている。 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認のため、シラバスに課題の種類や内容、そして課題に対するフィードバック方法を記載することになっている。他に総合型入試による入学生に対しては、入学後の学修成果や活動成果についての報告書を提出させ、それに対して教員アドバイザーが定期的に学習指導を行っている。 積極的に学ぶ姿勢を持つ学生の学習意欲を刺激するため、「向学相談」という教員による履修指導を行う時間（いわゆるオフィスアワー）を設けて、フィードバックを行う環境を整備している。また、授業科目によってはチューデントアシスタントを活用した授業補助や学習支援を行っている。加えて、学生版「向学相談」である「2024年度チューターによる正課外学修・教育支援」を実施している。
					法学部	授業の履修に関する指導として、新入生オリエンテーションでは通例の履修指導に加えて、特徴的な授業内容や活動を報告し、学生の就学意欲の向上に貢献している。また、履修モデルを示すことにより、学生に対して履修について指針を提示している。また2年次以降に各コースを選択するため、年度後半にはコース選択および授業履修に関する情報提供を行っている。 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認として、適宜、授業中における質疑応答、小テスト・中間テスト、添削済み答案の他者答案との比較検討、多様なグループワークによる自己レベルの確認等が行われている。 授業外学習に資するフィードバック等の措置として、第一に、講義時間外に取り組む課題を用意することにより、学生に対して復習を通じた知識・理解の定着の機会を用意している。この際、学習支援ツールとして、言語教育センターや図書館の各データベースや施設等を適宜案内している。第二に、学部生をSAとして雇用して一定の授業に配置し、授業時間における補助等により、学生に寄り添った学習体制を構築している。第三に、オンデマンド型の教育支援ソフトであるMoodleを通じて、教材の配布、課題の設定、コミュニケーションの円滑化が図られている。各種テストやレポートをMoodleに集約することで、学生のみならず教員にとっても、より効果的かつ効率的な授業参加が可能となっている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	児童教育学科
					授業の履修に関する指導として、入学後に履修オリエンテーションを行い、履修登録までに個別相談、高年次学生との相談機会の確保、moodle上での情報提供と質疑応答、教職センターでの対応等、履修指導を行っている。また、前期授業開始以後のフォローアップまで行い、一定の支援を行っている。旧カリ及び新カリが両方が走っているため、その点に十分注意した履修指導を行なっている。初年次教育では、学修相談を授業期間に毎週行っており、履修の相談がいつでも可能な体制を取っている。また学科全体で共有したい教育に関する資源の情報、卒論発表会、講演会等の情報については、moodleで掲示し、メール等でも周知している。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	児童教育学科
					学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認として、日常的教育活動での資料配付や連絡を容易にするため、1年次基礎科目から3、4年次の演習、卒業論文の指導についてもmoodleの使用を各教員が目的に沿って行っている。そのほか、各科目における学習の理解度の確認としては、学修に関するアンケートやそれぞれの教員で作成したアンケートを実施するなどしている。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	社会福祉学科
					授業外学習に資するフィードバック等の措置として、デジタル教科書購入、3号館403教室と図書館グループ学習室へのインストールにより、学生の授業実践に関する自主練習が可能になるよう、整備している。また、以前よりレポートの書き方や履修の相談に対応するために、高年次学生から相談員を募り、学修相談の体制を作っており、2024年度も学修相談を実施した。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	社会福祉学科
					全学的な取り組みとして、2023年度から学修ポートフォリオを導入している。学修ポートフォリオでは、成績、DP（ディプロマポリシー）観点別評価や履修情報などの学修履歴、課外活動や留学をはじめとした在学中の活動履歴、自らの学修目標や行動の振り返りなど、学生の学びの成果を総合的に蓄積したものである。学生が自ら学修方法や態度等を改善するための手段として、ポートフォリオを活用している。学科における授業の履修に関する指導として、新入生については入学後のオリエンテーション期間中に履修指導を行なっている。そこでは、卒業にむけて、また、希望する進路や専門的な資格・免許の取得にむけてそれぞれに対応して設定される履修モデルに基づき全体的な説明と指導を行なっている。また、障害等を有する学生、配慮を必要とする学生については学生相談室などと連携しながら情報を共有し、個別指導を行っている。なお、それ以降は1年、2年生においては基礎演習担当教員、3年生、4年生においては専門演習担当教員が個別に対応するなどして、きめ細やかな指導を行っている。また、社会福祉学科担当の教務課の職員が常時窓口対応を行っており、学生からの履修に関する相談や確認を受け付けている。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	社会福祉学科
					学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、およびそのフィードバックとしては、ソーシャルワーク演習(I～V)、およびソーシャルワーク実習指導(I～IV)の一部では、全クラス統一のワークシート等を導入し、毎回の授業において取り組む各テーマに各自の学修状況を確認することができ、また担当教員による添削も行なっている。また生命倫理学等の授業においては、毎回授業の最後に学生が書いたレポートを次週の授業までに集計・分析し、その内容のフィードバックを行なっている。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	社会福祉学科
					授業外学習に資するフィードバック等の措置として、特に前述のソーシャルワーク実習において、実習前に実習計画書を作成することにより目的を明確化し、実習中には考察や課題などを含めた実習記録を毎日記入し、実習指導者からのコメントを受けているなどとして、目的の理解度や達成度を学生が確認できるようなシステムをとっている。また、帰校日には、担当教員が実習記録および帰校日記録を確認し、面談による指導を行ない、実習終了後には実習評価表を作成し、担当教員との面談を行うなどの丁寧なフィードバックを行なっている。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	社会福祉学科
					学部教育推進プログラムによる「多文化共生社会への誘いー海外福祉実習プログラム」、および「先駆的ユニバーサルデザインのまちづくりを目で見て学ぶフィールドワーク体験学習」等の国内外での授業外学習においては、実施期間中に教員と学生が随時振り返りを行うなどのフィードバックを行い、報告書も作成している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	心理学科	授業の履修に関する指導として、3月初旬に在学生に対する履修指導、4月初旬には新入生に対する履修指導と上級生による履修相談説明会を通して、心理学科で獲得したい知識やスキルと必要な授業科目の履修との関係を示し、効果的な知識やスキルの獲得を促進している。また学科全体で共有したい教育に関する資源の情報、卒論発表会、講演会等の情報については、moodleで掲示し、メール等でも周知している。 学習の理解度・達成度の確認として、例年、入学時と卒業時に心理学の主要領域および研究手法に関する知識を測定するためのテストを行い、入学時と卒業時の点数の変化を分析している。結果についても学科協議会で共有し、改善点を議論している。 授業外学習に資するフィードバック等の措置として、ゼミでの研究や卒業研究を行うための資料を心理学科学内HPに掲載、全学年の学生の心理学実験を可能とするシステム（ソナシステム）の採用、心理学検定受検料の補助等を実施している。2024年度からは、心理学実験室にSAを配置し、1～2年生を中心とした学生が授業に関する質問を行いやすい環境を設けている。
					国際文化学部	授業の履修に関する指導としては、新入生と在学生に対してweb（Moodle）上で十分な情報を提供している。特に新入生に対しては、オリエンテーション期間中に学部長・学科主任・教務課担当者による対面形式の新入生履修説明会と、学部教員全員が出席する新入生歓迎談話を開催し、「基礎演習」に関する説明や「履修計画表」を用いた指導を行うとともに、パンフレット「新入生履修案内」を配付し、学部全体の特徴と4年間の体系的な学修に関する周知徹底に努めている。一方、在学生は入学年度で履修条件の細部が異なるため、その点に配慮した入学年度別の資料を作成・提供している。 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認としては、学生・教職員FD推進部会に所属する学部教員を通じて、「学修に関するアンケート集計結果」の情報共有を行い、そのデータに基づいて教授会で課題の発見と改善に関する協議を行っている。 授業外学習に資するフィードバック等の措置としては、教員が引率する研修旅行として「戦争をフィールドワークする」を継続的に実施している。これは授業での学びの発展として国内外での研修旅行と事前・事後の学習、研修レポートの作成を行うものである。また、「卒業論文表彰制度」では、在学生が優秀な卒業論文に触れ、各自の成長や学習の改善を促す機会を提供している。この制度は24のゼミから各1本の優秀論文を選出し、6つのコースでの審査を経た後、最終的に学部の審査委員会が最優秀賞・優秀賞・奨励賞を決定し、論文集を発行するものである。さらに、卒業論文に関しては、在学生が各自の研究テーマに関して主体的に学ぶ機会を提供するために、「研究旅行奨励制度」を設けている。これは学生が企画立案した研究旅行計画に対して、全6コースから選出された学部教員による審査委員会での選考を行い、研究旅行の学術的なサポートと助成を行う制度である。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）		部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 マネジメント委員会	403 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	3.授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。	④授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置をとっているか。	大学全体 （研究科）	授業の履修に関する指導として、入学前にオリエンテーションを実施し、学生に対して履修に関する情報の提供に努めている。入学式後に開催されるガイダンスにおいて、当該年度に開講される科目のシラバスを提示しながら、履修指導を行っている。また、各教員において適宜研究指導計画書等に沿い、授業科目の履修・学修に係る指導・助言を行っている。 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認として、「研究指導計画書」及び「研究指導報告書」を活用している。「研究指導計画書」は、各年度初めに学生が教員の指導・助言のもと作成後、学生及び教員にて共有し、研究活動を進めている。各年度末には、振り返りや今後の構想のため、研究活動の進捗状況に関する「研究指導報告書」を学生が作成し、教員と共有している。 授業外学習に資するフィードバック等の措置として、シラバスにおいて、授業内外で課せられる課題の種類・内容や課題に対するフィードバックの方法を明示しているほか、適宜、履修者とのコミュニケーション等を通じて授業内外における課題量の適切性の確認に努めている。
		404 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。	1.成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。		大学全体 （学部）	成績評価については、西南学院大学学則第26条、履修規程第34、35条に規定する成績評語及び成績評価基準に基づき、各授業科目のシラバスにおいて、成績評価の方法・基準を明示し、客観的かつ厳格に実施している。 加えて、学修者本位の教育課程の担保の観点から、西南学院大学教学マネジメントガイドラインに「成績評価の適切性（客観性や厳格性等の担保）に係る考え方」を定め、2025年度から適用する。 単位認定については、西南学院大学学則第17条において授業科目の単位算定の基準を定め、1単位に対して必要な授業時間を示すとともに、履修規程において試験及び成績について定め、さらに各授業科目のシラバスにおいて、事前・事後学習の方法及び時間を明示し、適切に実施している。
					大学全体 （研究科）	成績評価については、西南学院大学院研究科規則第6、7条に規定する成績評語及び成績評価基準に基づき、各授業科目のシラバスにおいて、成績評価の方法・基準を明示し、客観的かつ厳格に実施している。 単位認定については、西南学院大学大学院学則第45条及び第14条並びに西南学院大学大学院研究科規則第6、7条により、授業時間や試験及び成績について定めるとともに、各授業科目のシラバスにおいて、事前・事後学習の方法及び時間を明示し、適切に実施している。 加えて、学位授与方針の内容に沿った成績評価基準により学生一人ひとりの評定を、客観的、厳格、かつ公正に決定するため、全研究科共通のコモン・ルーブリックを2023年度から運用している。授業科目の性質にふさわしい方法および基準を用いて、厳格かつ適切な成績評価に基づいた単位認定を行っている。
			2.成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。		大学全体 （学部）	成績評価については、西南学院大学学則第26条、履修規程第34、35条において成績評語及び成績評価基準を明示し、各授業科目のシラバスにおいて、成績評価の方法・基準を明記している。 単位認定については、西南学院大学学則第17条において授業科目の単位算定の基準を明示している。 成績評語異議申立については、「西南学院大学における成績評語異議申立に関する内規」に基づき、その基準及び手続きを明示している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 マネジメント委員会	404 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。	2.成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。	大学全体 （研究科）	成績評価については、西南学院大学研究科規則第6、7条において成績評語及び成績評価基準を明示し、各授業科目のシラバスにおいて、成績評価の方法・基準を明記している。 単位認定については、西南学院大学大学院学則第45条及び第14条並びに西南学院大学院研究科規則第6、7条において授業科目の単位算定の基準を明示している。
			3.既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。	大学全体 （学部）	既修得単位の認定について、転・編入学者等に対し、「転入学生等の既修得単位の認定について」に基づき適切に認定している。 また、派遣留学先で修得された既修得単位についても、国際センターによる基準に基づき適切に認定している。 実践的な能力に関する単位の認定について、各英語検定結果及び学内基準に基づき、1年次の英語4科目の単位を適切に認定している。 また、学部学科によっては、学問分野の特性に応じた各種検定結果及び学内基準に基づき、専攻科目の単位を適切に認定している。
				大学全体 （研究科）	留学先で修得した既修得単位について、「外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規」に基づき適切に認定している。加えて、リカレント教育の社会人を受け入れる際の土台として、他大学の単位互換、本学大学院に入学する前に修得した単位を本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす既修得単位の認定制度を制定している。
			4.学位授与における実施手続及び体制が明確であるか。	大学全体 （学部）	学位授与における実施手続及び体制は、西南学院大学学則第6条の3、履修規程に基づき、恣意性を排除した明確なものとなっている。
				大学全体 （研究科）	学位授与における実施手続及び体制は、西南学院大学大学院学則第40～44条、西南学院大学大学院研究科規則、西南学院大学学位規則に基づき、恣意性を排除した明確なものとなっている。
		405 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。	5.学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。	大学全体 （学部）	西南学院大学学則第6、15～17条及び履修規程第2、5、12、30～40条に基づいた卒業判定（学位授与判定）を実施し、適切に学位授与を行っている。
				大学全体 （研究科）	西南学院大学大学院学則第9、10、12、15、39～44条、西南学院大学大学院研究科規則第2～7条、西南学院大学学位規則第3～21条に基づいた修了判定を実施し適切に学位授与を行っている。
			1.学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。	大学全体 （学部）	大学及び各学位課程において、アセスメント・ポリシーを策定し、学位授与方針に明示する学修成果としての各資質・能力の評価について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法等を定め、アセスメントマップにおいて各種調査法を明示している。
				大学全体 （研究科）	博士前期課程・修士課程、博士後期課程及び各学位課程において、アセスメント・ポリシーを策定し、学位授与方針に明示する学修成果の測定方法を定め明示している。
			2.学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。	神学部	学修成果を把握・評価する方法として、DP観点別評価を実施しており、学位授与方針に定めた学修成果の到達状況を把握している。 また、各学位課程のアセスメント・ポリシーにおいて、学位授与方針に定めた学修成果を把握するための主な授業科目を定めており、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切な指標を設定している。 神学部では、2023年度から、全学的な導入と合わせ、神学部科目ルーブリックの適用を開始した。なお、神学部では、4年間の学習の総合成果とも言える卒業論文作成にあたって、「卒論構想発表会」「中間発表会」「最終発表会」という形で全員が発表して学生と教員からフィードバックを受ける会を開催している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 マネジメント委員会	405 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。	2.学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。	外国語学部	学修成果を把握・評価する方法として、DP（学位授与方針）に基づく観点別評価を実施しており、学位授与方針に定めた学修成果の到達状況を把握している。また、各学位課程においてはアセスメント・ポリシーを策定し、DPに定められた学修成果の評価に資する主な授業科目を明示した上で、それぞれの成果に照らして適切な指標を設定している。 外国語学部では、2023年度からの全学的な取り組みに連動し、学部としてもアセスメント・ポリシーを策定・適用している。これに基づき、DPの各観点に応じた観点別評価を実施しており、各学位課程の専門分野の特性や、学生に求める学修成果の内容に応じた把握・評価が行われている。 加えて、定量的な分析のため、教学IR定型レポートを活用し、学生のGPAの推移、履修傾向、卒業論文の履修率などのデータを定期的に把握している。これにより、個別科目の到達度にとどまらず、学位課程全体における学修成果の蓄積状況を多面的に検証する体制が整えられている。
				商学部	学修成果を把握・評価する方法として、DP観点別評価を実施しており、学位授与方針に定めた学修成果の到達状況を把握している。また、各学位課程のアセスメント・ポリシーにおいて、学位授与方針に定めた学修成果を把握するための主な授業科目を定めており、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切な指標を設定している。 商学部では、2023年度から全学的な導入と合わせ、アセスメント・ポリシーが適用され、同ポリシーのもとに、学修成果の測定が実施されている。学修成果を把握・評価する指標や方法について、2024年度においては特に疑義は出なかった。
				経済学部	学修成果を把握・評価する方法として、DP観点別評価を実施しており、学位授与方針に定めた学修成果の到達状況を把握している。また、各学位課程のアセスメント・ポリシーにおいて、学位授与方針に定めた学修成果を把握するための主な授業科目を定めており、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切な指標を設定している。 経済学部では、全学的な導入と合わせ、アセスメント・ポリシーを策定のうえ、適用している。また、DP観点別評価（ルーブリック）の実施によって、専門分野の性質、学生に求める学修成果の内容に応じた把握・評価を実施している。なかでも、「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」、「経済学入門」、「経済英語Ⅰ」、「経済英語Ⅰ・Ⅱ」、そして「卒業論文」など経済学部生に共通して求められる学修成果については、共通のDP観点別評価（ルーブリック）によって評価するなどしている。それに基づいて「経済学入門」ではテキストの変更を行った。その他にも全学的に実施される直接評価の外部アセスメントテスト（GPSアカデミック）や各種調査等によって学習成果を間接的に把握・評価している。
				法学部	学修成果を把握・評価する方法として、DP観点別評価を実施しており、学位授与方針に定めた学修成果の到達状況を把握している。また、各学位課程のアセスメント・ポリシーにおいて、学位授与方針に定めた学修成果を把握するための主な授業科目を定めており、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切な指標を設定している。 法学部では、2023年度から、全学的な導入と合わせ、大学のアセスメント・ポリシーに連関し、各学位課程においてもアセスメント・ポリシーを策定のうえ、適用している。これと併せ、DP観点別評価の実施によって、各学位課程の専門分野の性質、学生に求める学修成果の内容に応じた把握・評価を実施している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 マネジメント委員会	405 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。	2.学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。	児童教育学科	学修成果を把握・評価する方法として、DP観点別評価を実施しており、学位授与方針に定めた学修成果の到達状況を把握している。また、各学位課程のアセスメント・ポリシーにおいて、学位授与方針に定めた学修成果を把握するための主な授業科目を定めており、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切な指標を設定している。 児童教育学科では、2022年度に策定した学科のアセスメント・ポリシーに基づき、2024年度においても、各教科のシラバスにおけるルーブリック作成等を各教員が行った。
				社会福祉学科	学修成果を把握・評価する方法として、DP観点別評価を実施しており、学位授与方針に定めた学修成果の到達状況を把握している。また、各学位課程のアセスメント・ポリシーにおいて、学位授与方針に定めた学修成果を把握するための主な授業科目を定めており、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切な指標を設定している。 社会福祉学科では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえたアセスメント・ポリシーを作成し、共通科目および専門科目すべての科目について、知識・技能、思考力・判断力・表現力、総合的な学修経験・創造性、態度・志向性ごとに学習成果を測定する方法について明記している。具体的には、講義などでの理論的学習についてはペーパーテストなどを用い評価し、演習や実習など実践的学習については独自の基準を設定し（実習教育マニュアル、巡回訪問報告等）、教員とともに外部での実践指導者も評価している。
				心理学科	学修成果を把握・評価する方法として、DP観点別評価を実施しており、学位授与方針に定めた学修成果の到達状況を把握している。また、各学位課程のアセスメント・ポリシーにおいて、学位授与方針に定めた学修成果を把握するための主な授業科目を定めており、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切な指標を設定している。 心理学科では、2022年度からは全学部の導入と合わせ、アセスメントポリシーに基づく、ルーブリック評価を導入している。また学科独自の取り組みとして、例年、入学時と卒業時に心理学の主要領域および研究手法に関する知識を測定するためのテストを行い、入学時と卒業時の点数の変化を求めることで、4年間の学修成果を測定している。その結果についても学科協議会を通じて共有、議論している。
				国際文化学部	学修成果を把握・評価する方法として、DP観点別評価を実施しており、学位授与方針に定めた学修成果の到達状況を把握している。また、各学位課程のアセスメント・ポリシーにおいて、学位授与方針に定めた学修成果を把握するための主な授業科目を定めており、学位授与方針に定めた学修成果に照らして適切な指標を設定している。 国際文化学部では、全学的な導入と歩調を合わせて、2023年度から国際文化学科アセスメント・ポリシーを運用しており、学部内で提供している科目群の中から基幹科目（DPコア科目）を選定し、DP観点別評価で示した4つのカテゴリと対応させるかたちで、それらの基幹科目を次の4つのグループに分類している。①知識・技能：「文化コース基礎論」、「日本文化史」等、「専門外国語」。②思考力・判断力・表現力等：「基礎演習」、「導入演習」。③総合的な学修経験・創造性：「専門演習」、「卒論演習」。④態度・志向性：「文化創造論」等、「文化のダイナミズム」等。これらの授業科目は、学修成果を把握・評価するための指標であり、国際文化学科アセスメント・ポリシーではそれぞれの授業科目で学修成果を測定する方法が各科目の特性に応じて設定されている。以上の指標と方法によって、学位授与方針に定めた学修成果を適切に把握・評価するための体制を整えている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4 教育・学習	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	405 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。	2.学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。	法学研究科	2023年度から、学修成果を把握・評価する方法として、大学院コモン・ループブリックを実施しており、DP観点別に学生の学修成果の達成度合いを把握し、評価している。
				経営学研究科	高度な専門的教育を行っているので共通の測定方法で数値化するなどの可視化は困難なため、経営学研究科委員会における修士論文審査において、研究科長への報告書より詳細な審査報告が主査、副査より行われ、さらに当該学生の受講科目の担当教員より受講の様子、成績評価についての報告も行われ、学習成果の適正な把握、評価に努めた。
				外国語学研究科	学生に求める学習成果の評価は、それぞれの専修、また授業科目によって多様である。学期中随時プレゼンテーションを課したり、論文を提出させたり、また筆記による客観テストを課す場合もある。
				文学研究科 英文学専攻	修士論文および博士論文の審査は、研究科委員会により承認された主査1名、副査2名からなる審査委員会による口頭諮問を行い、内規に定められた修士論文審査基準に基づく厳正な評価を行っている。すべての学位論文審査は、研究科委員会において指導教授による審査結果報告をへて承認している。その他、学習成果は在学生・卒業生のアンケート調査によって測定されている。
				文学研究科 フランス文学専攻	フランス文学専攻の学生に求める学習成果は、各授業科目によって異なっている。中間および期末テストを、プレゼンテーションの形で行っている科目、筆記による客観テストによって行っている科目もある。博士前期課程の学生も博士後期課程の学生も学内外の研究会、学会で発表することによって、より適切な学位授与が可能になっている。学習成果は卒業生のアンケート調査によって測定されている。
				経済学研究科	学位授与方針に定めた科目レベルの学習成果については、DPカテゴリーごとに設定し、カリキュラムマップに示している。また成績評価については、DP1（知識・技能）、DP2（研究能力（思考・判断・表現））そしてDP3（意識・関心・態度）のカテゴリーへの寄与率及びコモン・ループブリックに基づき適切に評価している。
				神学研究科	大学院コモン・ループブリックに従い、研究科の専門特性に鑑みた学位授与の方針に沿って、学習成果を把握・評価している。5月末の論文構想発表会、10月半ばの論文中間発表会に教員のほぼ全員が参加し、発表者の学習成果を神学の各分野から多角的に把握・評価し、指導している。論文の審査は主査1名、副査2名からなる審査委員会が口頭試問を経て審査報告書を研究科長に提出し、最終的に研究科委員会で審査し、評価している。
				人間科学研究科 人間科学専攻	各授業は、それぞれのシラバスに記載のループブリックの内容に則り、評価されている。 修士論文は、例年通り、修論発表会、審査委員会を経て、研究科委員会での審査を経て評価されている。
				人間科学研究科 臨床心理学専攻	各科目の担当教員が各資格の要件を踏まえて行っている。 また、修士論文は、例年通り、修論発表会、審査委員会を経て、研究科委員会での審査を経て評価されている。 各授業は、それぞれのシラバスに記載のディプロマポリシーの内容に則り、評価されている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	405 学位授与方針に 明示した学生の 学習成果を適切 に把握及び評価 していること。	2.学習成果を把握・評価する指標 や方法は、学位授与方針に定めた 学習成果に照らして適切なもの か。	国際文化研究科	国際文化研究科では、2023年度より導入された大学院コモン・ ルーブリックを活用して各科目の成績評価を行っている。また、 大学院在学学生ならびに修了生を対象とするアンケートの結果を研 究科FD委員会の議題に挙げることを通じて大学院生の研究環境を めぐる課題を教員間で共有し、論文発表の支援をはじめとする研 究活動支援がよりきめ細かく行き渡るよう検討している。さら に、毎年秋に開催されている国際文化研究科修士論文中間発表会 に教員が参加することによって、大学院生の研究をめぐる現況を 把握しながら、学位取得へ向けて適切かつ専門的な研究指導が行 われるように努めている。
			3.指標や方法を適切に用いて学習 成果を把握・評価し、大学として 設定する目的に応じた活用を図っ ているか。	神学部	大学のアセスメント・ポリシー及び同ポリシー内のアセスメント マップにおいて、学修成果を把握・評価するための各種調査法、 測定できる学修成果、それを活用できる項目を明示し、各種調査 法の所管委員会等を中心に、活用を図っている。このうち、特に 教学IR定型レポートは、全学科統一的に活用できるところである 教学事項に関する各種結果をまとめたものであり、教育活動の改善・ 向上に資するよう、2024年度から全学科に導入している。2025 年度以降、より具体的な改善に繋げることができるよう、引き続き 組織的な学修成果の活用を図る。 神学部では、2023年度から、科目ルーブリック適用をとアセスマ ント・ポリシー適用を開始した。神学生の教会研修については、 2023年に策定した「神学生の教会研修～神学部からお願いしたい ことと、教会での実際について」と題した資料を配布し、研修に 期待する具体的成果について研修教会牧師に説明している。
				外国語学部	大学のアセスメント・ポリシーおよび同ポリシー内に示されたアセ スメントマップにおいては、学修成果を把握・評価するための各種調査 方法、測定可能な学修成果、それらを活用できる教育改善の項目が明 示されている。これらの調査は、それぞれの所管委員会等を中心とし て実施されており、得られた結果は大学全体の教育活動の質向上に資 するよう活用されている。特に、「教学IR定型レポート」は、全学的 に共通活用可能な教学関連データ（GPA、履修状況、修了状況等）を体 系的にまとめたものであり、2024年度から全学科に導入された。2025 年度以降は、これらのデータに基づくより具体的な改善策の実施に向 け、組織的な学修成果の活用を引き続き推進していく。 外国語学部では、2023年度から大学のアセスメント・ポリシーに連動 し、各学位課程においても独自のアセスメント・ポリシーを策定・適 用している。学位授与方針に明記された4つのカテゴリー（知識・技 能・思考力・態度等）に沿って、学修成果の測定に資する主な科目を 定め、これらの科目におけるDP観点別評価の結果を、学習成果の評価 指標として活用している。 また、2024年度からは、教学IR定型レポートを学部内での学修成果分 析に積極的に導入し、GPAの推移、履修傾向、卒業論文履修率などを定 量的に把握している。これらのデータは、カリキュラムの検討、成績 評価の妥当性の検証、進級・卒業支援体制の強化といった実務におい て、学修成果の可視化と改善に活かされている。今後は、DPに基づく 学修成果の蓄積と可視化をさらに強化し、教育課程の設計・運用に継 続的に反映させていく体制の構築を進めていく。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4 教育・学習	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	405 学位授与方針に 明示した学生の 学習成果を適切 に把握及び評価 していること。	3.指標や方法を適切に用いて学習 成果を把握・評価し、大学として 設定する目的に応じた活用を図っ ているか。	商学部	大学のアセスメント・ポリシー及び同ポリシー内のアセスメントマップにおいて、学修成果を把握・評価するための各種調査法、測定できる学修成果、それを活用できる項目を明示し、各種調査法の所管委員会等を中心に、活用を図っている。このうち、特に教学IR定型レポートは、全学科統一的に活用できであろう教学事項に関する各種結果をまとめたものであり、教育活動の改善・向上に資するよう、2024年度から全学科に導入している。2025年度以降、より具体的な改善に繋げることができるよう、引き続き組織的な学修成果の活用を図る。 商学部では、2023年度からアセスメント・ポリシーが適用され、同ポリシーのもとに学修成果の測定を実施している。2024年度は、カリキュラム別DPコア科目の修得状況を確認し、履修指導時の課題を明確化した。
				経済学部	大学のアセスメント・ポリシー及び同ポリシー内のアセスメントマップにおいて、学修成果を把握・評価するための各種調査法、測定できる学修成果、それを活用できる項目を明示し、各種調査法の所管委員会等を中心に、活用を図っている。このうち、特に教学IR定型レポートは、全学科統一的に活用できであろう教学事項に関する各種結果をまとめたものであり、教育活動の改善・向上に資するよう、2024年度から全学科に導入している。2025年度以降、より具体的な改善に繋げることができるよう、引き続き組織的な学修成果の活用を図る。 経済学部では、アセスメント・ポリシーを策定のうえ適用している。併せて経済学の専門分野の性質等を踏まえ、学位授与方針に明示する4つのカテゴリーの学修成果を測定するための主な科目（DPコア科目）を定め、この主な科目のDP観点別評価の結果等を、学修成果を測定するための評価指標として導入している。評価指標に設定されたDPコア科目については、その履修状況や成績分布状況を確認した。
				法学部	大学のアセスメント・ポリシー及び同ポリシー内のアセスメントマップにおいて、学修成果を把握・評価するための各種調査法、測定できる学修成果、それを活用できる項目を明示し、各種調査法の所管委員会等を中心に、活用を図っている。このうち、特に教学IR定型レポートは、全学科統一的に活用できであろう教学事項に関する各種結果をまとめたものであり、教育活動の改善・向上に資するよう、2024年度から全学科に導入している。2025年度以降、より具体的な改善に繋げることができるよう、引き続き組織的な学修成果の活用を図る。 法学部では、2023年度から、大学のアセスメント・ポリシーに関連し、各学位課程においてもアセスメント・ポリシーを策定のうえ、適用している。併せて、各学位課程の専門分野の性質等を踏まえ、学位授与方針に明示する4つのカテゴリーの学修成果を測定するための主な科目を定め、この主な科目のDP観点別評価の結果等を、学修成果を測定するための評価指標として導入し、運用している。
				児童教育学科	大学のアセスメント・ポリシー及び同ポリシー内のアセスメントマップにおいて、学修成果を把握・評価するための各種調査法、測定できる学修成果、それを活用できる項目を明示し、各種調査法の所管委員会等を中心に、活用を図っている。このうち、特に教学IR定型レポートは、全学科統一的に活用できであろう教学事項に関する各種結果をまとめたものであり、教育活動の改善・向上に資するよう、2024年度に全学科に導入した。2025年度以降は、より具体的な改善に繋げることができるよう、引き続き組織的な学修成果の活用を図っている。 児童教育学科では、カリキュラムマップにより、各科目とDPの関係が明示されたことによるDP観点別評価導入により、学科の専門分野に関連した学習成果の可視化がなされている。把握・評価した学修成果をもとに、各教員において教育内容や方法の改善を図っている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4 教育・学習	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	405 学位授与方針に 明示した学生の 学習成果を適切 に把握及び評価 していること。	3.指標や方法を適切に用いて学習 成果を把握・評価し、大学として 設定する目的に応じた活用を図っ ているか。	社会福祉学科	大学のアセスメント・ポリシー及び同ポリシー内のアセスメントマップにおいて、学修成果を把握・評価するための各種調査法、測定できる学修成果、それを活用できる項目を明示し、各種調査法の所管委員会等を中心に、活用を図っている。このうち、特に教学IR定型レポートは、全学科統一的に活用できであろう教学事項に関する各種結果をまとめたものであり、教育活動の改善・向上に資するよう、2024年度から全学科に導入している。2025年度以降、より具体的な改善に繋げることができるよう、引き続き組織的な学修成果の活用を図る。 社会福祉学科では、社会福祉の実習科目については実践的側面から学習成果を評価することができるよう実習教育マニュアル、実習記録、および帰校日記録などを用い、実践的側面から学習成果を評価し、その結果を実習での学修内容（実習前後の指導や学修内容含む）・実習先選定・実習における評価指標や方法の見直しに随時活用している。
				心理学科	大学のアセスメント・ポリシー及び同ポリシー内のアセスメントマップにおいて、学修成果を把握・評価するための各種調査法、測定できる学修成果、それを活用できる項目を明示し、各種調査法の所管委員会等を中心に、活用を図っている。このうち、特に教学IR定型レポートは、全学科統一的に活用できであろう教学事項に関する各種結果をまとめたものであり、教育活動の改善・向上に資するよう、2024年度から全学科に導入している。2025年度以降、より具体的な改善に繋げることができるよう、引き続き組織的な学修成果の活用を図る。 心理学科では学科独自の取り組みとして、例年、入学時と卒業時に心理学の主要領域および研究手法に関する知識を評価するテストを行い、入学時と卒業時の点数の変化を求めることで、4年間の学修成果を測定している。その結果についても学科協議会を通じて共有、議論している。
				国際文化学部	大学のアセスメント・ポリシー及び同ポリシー内のアセスメントマップにおいて、学修成果を把握・評価するための各種調査法、測定できる学修成果、それを活用できる項目を明示し、各種調査法の所管委員会等を中心に、活用を図っている。このうち、特に教学IR定型レポートは、全学科統一的に活用できであろう教学事項に関する各種結果をまとめたものであり、教育活動の改善・向上に資するよう、2024年度から全学科に導入している。2025年度以降、より具体的な改善に繋げることができるよう、引き続き組織的な学修成果の活用を図る。 国際文化学部では、DP観点別評価と国際文化学科アセスメント・ポリシーによって、学修成果を把握・評価するための指標や方法を明確化しているが、それらの運用が適切に行われているかを検証するために、教学IR定型レポートと学修に関するアンケート集計結果を参照している。2024年度はそれらのデータを活用するかたちで、計4回の学部FD委員会を開催し、特に基幹科目（PDコア科目）について、課題の量や講義内容の難易度に関する協議が行われた。以上のように本学部では、在学生の学修成果を把握・可視化するために、客観的なデータの分析と活用が行われている。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 マネジメント委員会	405 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。	3.指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。	大学全体 （研究科）	大学院アセスメント・ポリシーに基づいてアンケートや学生の成績評価等のデータを収集している。今後、各学位課程の専門分野の性質、学生に求める学修成果の内容に応じた学修成果を測定するための評価指標の導入について、2023年度から導入しているコモン・ルーブリックの結果や、GPAの把握を通じて、大学院全体として検討することとしている。 各学位課程の特性に応じ、研究発表、筆記による客観テスト、論文構想発表会等といった学修成果の把握と評価の手段をとっている。また、2023年度から全研究科の取組として、DPに明示した学生の学修成果を把握及び評価するための方法として、DPの3つのカテゴリーと関連させた大学院コモン・ルーブリックを導入している。加えて、従来実施している在学生、修了生に対するアンケートについて、DPに明示する学修成果としての資質・能力が身についたかどうかを問う設問を加えている。
		406 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	1.教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。	大学全体 （学部）	「西南学院大学自己点検・評価規程」及び「西南学院大学自己点検・評価規程細則」に基づき、各学部自己点検・評価委員会や各学部教授会、各学科協議会において、教育課程及びその内容、方法について、定期的に自己点検・評価を行っている。
				大学全体 （研究科）	「西南学院大学自己点検・評価規程」及び「西南学院大学自己点検・評価規程細則」に基づき、大学院点検評価委員会において、教育課程及びその内容、方法の適切性について点検・評価を実施しているほか、内容によって、大学院委員会及び大学院FD委員会においても協議を行っている。
			2.課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。	大学全体 （学部）	大学のアセスメント・ポリシー及び各学位課程のアセスメント・ポリシーに基づき、課程修了時に求められる学修成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学修状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用し、教育課程及びその内容、教育方法について、点検・評価し、改善・向上に取り組んでいる。特に、教学IR定型レポートを導入し、アセスメント・ポリシーに記された複数の調査法により得られる各種結果を、IR を通じて統計的に集計・分析した定型資料を活用している。
				大学全体 （研究科）	大学院のアセスメント・ポリシー及び各学位課程のアセスメント・ポリシーに基づき、課程修了時に求められる学修成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学修状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用し、教育課程及びその内容、教育方法について、点検・評価し、改善・向上に取り組んでいる。
			3.外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。	大学全体 （学部）	学修に関するアンケート結果や学生・教職員FD推進部会の学生部会員の意見等を踏まえ、教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価の客観性を高める工夫を行っている。
				大学全体 （研究科）	在学生、修了生アンケート結果を踏まえ、教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価結果の客観性を高める工夫を行っている。
			4.自己点検・評価の結果を活用し、教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。	神学部	神学部教授会や同FD委員会でアクションプラン化している。2024年度末の臨時教授会ではFD委員会を経ての基礎演習科目の必要が確認され、次の年度で検討していくことになった。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
4	教育・学習 マネジメント委員会	406 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	4.自己点検・評価の結果を活用し、教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。	外国語学部	本学では、課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用し、教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価を行っている。教学IR定型レポート、授業評価アンケート、卒業時アンケート等の結果を踏まえ、必要に応じて全学的な教育改善方針を策定し、学部・学科におけるカリキュラム改訂や指導方法の見直しへとつなげている。 外国語学部では、課程修了時の学習成果の到達状況（GPA、卒業論文履修率、資格試験取得状況等）や、授業評価アンケート、進路状況などのデータを参照しつつ、教育課程および指導方法に関して改善が必要と判断される場合には、学内にタスクフォースを設け、各領域のコーディネーターを中心に次年度に向けた改善方針を協議している。こうした協議の結果は、カリキュラム構成や授業シラバスの記述に反映されており、教育内容の体系的な教育方法の実効性向上に資するよう調整が行われている。 2024年度においても、FD活動や授業評価アンケートの結果をもとに、スキル科目の指導順序の見直しや評価基準の明確化に関する議論が行われており、次年度に向けた反映を予定している。今後は、より体系的に教育課程と学修成果の関係性を可視化できる仕組みを整備し、改善のサイクルを持続的に回していくことが課題である。
				商学部	2024年度は、カリキュラム別DPコア科目の修得状況に基づき、コア科目でありながら履修状況が芳しくない状況があることを確認し、履修指導における課題を明確化することで、今後の教育課程・内容・方法の改善・向上につなげた。
				経済学部	経済学部の自己点検評価委員会は学部長経験者を中心に構成し、広い視野で点検評価を実施できるようにしている。自己点検・評価の結果については経済学部教授会で報告し、経済学部専任教員が教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上に取り組むよう促している。また経済学部FD研究会にて、教育方法の改善・向上に向けた分析や改善策の検討などを行っている。
				法学部	両学科主任・学生主任が自己点検・評価委員会を構成しており、同委員会が点検・評価を行っているが、2022年度においては定期的な会合は行っておらず、学習成果の測定結果を教育課程の改善に活用するための取組みも十分に実施できていなかった。そのため、2023年度以降は、定期的な委員会の開催と学習成果の測定結果を教育課程等の改善に反映させる方策の検討を進めてきた。2025年度はより具体的な検討を進める予定である。
				児童教育学科	現状では教職課程における履修カルテを学生と担当教員で確認し、卒業生の進路状況については学科教員で共有しているが、学習成果との因果関係検討、考察には至っていない。今後は策定したアセスメント・ポリシーに基づき、入試、在学期間の学修状況と卒業進路との対応を検討することによって、改善が可能になると考える。
				社会福祉学科	社会福祉学科では組織として、自己点検・評価の結果を活用し、教育課程の改善の過程において、学習成果の測定結果を活用している事例は特にないが、個々の教員は問題意識を持っており、その一部の課題については、毎月の学科協議会（2024年度には15回開催）にて情報共有が行われている。
				心理学科	人間科学部の専任教員が参加する自己点検評価委員会において、自己点検評価の結果を共有している。 2024年度心理学科では、学科FDを通じて、学科アセスメントポリシー等に加えて2023年度の自己点検評価の結果をもとに各教員の教育活動や工夫等を共有・討議し、各教員の教育内容や教育方法の改善に活用する機会を設けた（5月）。

2025年度自己点検・評価シート
 点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明
4 教育・学習	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	406 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	4.自己点検・評価の結果を活用し、教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。	国際文化学部	国際文化学部では、課程修了時に求められる最も重要な学修成果として、卒業論文を位置づけており、「卒業論文表彰制度」は在学生の学修成果を適切に測定・評価する教育活動であると同時に、各教員による教育の内容・方法を自己点検する機会となっている。この制度では、先ず「卒論演習」を担当する全24名の学部教員が、各クラスで第1次審査を行って優秀論文1本を選出した後、第2次審査では各4名の教員で構成される全6コースで選考を行い、各コースの代表論文1本が選出される。最終審査では、各6コースの教員6名からなる卒業論文表彰制度委員が審査を担当する。第2次審査と最終審査を行う際には、①論理性、②独創性、③構成、④語表現、⑤注表記の5つの観点で卒業論文を評価する仕組みとなっており、最終的に最優秀賞・優秀賞・奨励賞を決定し、論文集を発行するとともに、学部教授会で審査過程に関する情報共有を行う。このように学部の全教員が審査過程に関与し、各自の担当ではない他のクラスの学習状況や教育内容・方法を把握するとともに、最終的な学修成果（卒業論文）に関する情報に基づいて、各自の教育活動の改善・開発のために活用できる環境が整備されている。 また、「研究旅行奨励制度」は、授業外における学習状況や教育内容を可視化し、教育活動の改善・開発を進める試みである。この制度は、学生が企画立案した研究旅行に対する助成を行うものだが、応募用紙・研究旅行計画書・研究旅行予定表・添付資料A4用紙2枚は、事前に演習担当教員が添削することになっており、審査は全6コースから選出された教員6名が第1次の書類審査と第2次の面接を行い、審査過程でも旅行計画に関する研究指導が行われる。さらに旅行後に提出される研究旅行実施レポート(4000字程度)については、演習担当教員が添削を行い、完成稿を学部HPで公開している。この制度では、学部の全教員が、審査過程や学部HPでの情報に基づいて、授業外の学習状況や教育内容を把握できる仕組みが作られており、それら情報に基づいて教育活動の改善・開発に活用できる体制が構築されている。
				大学全体 （研究科）	大学院FD委員会において、入試関係資料、学生の単位修得状況、履修単位数、在学生、修了者アンケート、「研究指導計画書」、「学位取得のためのガイドライン（修士、博士）」等に基づいて、教育課程の在り方を検討し、各研究科・専攻委員会に対して、各種提案・依頼を行っている。今後、教学事項の内部質保証サイクルに則り、各研究科・専攻の自己点検・評価委員会において自己点検・評価を行い、毎年度末に問題点を確認して、次年度の改善、改革を推進できる体制を確立する。
基準 6	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会 教 員 ・ 教 員 組 織	603 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	1.教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。	神学部	学部では、西南フォーラムやファカルティ・リトリート、ラーニングサポートセンターによるFD研修等を実施し、全学的にFD活動の機会を提供している。 神学部では、FD委員会を全教授会メンバーで構成し、年に2回春と夏にFD研究会と懇談会（神学部の現状や課題、将来構想について話し合う会）を実施している。2024年度は、春には世界のバプテスト教会の神学教育・牧会者養成教育における現状や課題について、夏には神学教育の現場における法律問題、特に学生のプライバシー保護の具体策などについて、外部講師を招いてFD活動を実施した。また学内や外部講師によって行われている定期的な講演会（学術講演会・チャペル説教・シンポジウム）も、教員の資質向上につながっている。また、2024年度ミッションデーでは、教員と学生が共に参加する尊厳についてのワークショップを開催した。以上の会合には、毎回ほぼ全教員が参加している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
基準 6 教員・ 教員組織	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	603 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	1.教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。	外国語学部	学部では、西南フォーラムやファカルティ・リトリート、ラーニングサポートセンターによるFD研修等を実施し、全学的にFD活動の機会を提供している。 外国語学部では、教授会構成員全員をFD委員として位置づけ、学部教授会において定期的に教育・研究・社会貢献活動の情報共有と意見交換を実施している。また、Moodle上に専用のFDフォーラムを設置し、教員間での情報共有や授業方法に関する意見交換を促進しており、この取り組みは統一的なシラバス作成や教育課程改善にも活用されている。 教育課程や授業方法の改善に向けては、初年次教育検討委員会やスキル系科目委員会を設置し、それぞれの領域における課題の把握と改善策の検討を行っている。2021年度には、英語スキル系科目に関する学生アンケートを実施し、その結果を翌年度のシラバス作成に反映させた。2022年度からは、学部完成年度後を見据えた改善の継続を目的として、FD推進委員会を新たに設置し、より体系的なFD活動を展開している。 2024年度も引き続き、Moodle上でのFDフォーラムの活用に加え、スキル系科目に関する評価の観点や到達目標の明確化について議論を行っており、FD活動の成果をカリキュラムおよび授業設計に反映させる取り組みを継続している。今後の課題としては、個別授業レベルの成果と教育課程全体の構造的改善とをいかに有機的に接続していくかが挙げられる。
				商学部	商学部では、全学的なFD活動である西南フォーラムやファカルティ・リトリート、ラーニングサポートセンターによるFD研修等を積極的に活用している。 さらに現在の執行部（学部長、商学科主任、経営学科主任、学生主任）、ひとつ前の執行部、そして4つのコースのコース責任者をメンバーとする商学部FD委員会を組織し、学部の教育活動に係る諸問題に対して、組織的な対応を行っている。さらに、とりわけ重要な問題については、学部教授会にて報告や協議を行い、情報共有と意見集約に努めている。 2024年度は、学部全体のFD会議を3回開催した。学部全体FDの第1回は70周年を迎えた商学部の歴史を振り返り、現代の学問的要請に応じた教育内容の充実化が図られていることを確認した。第2回は教学IR定型レポートを活用した分析を実施し、2年次からのゼミを4年次まで継続させることについて、教育課程や授業方法の改善につなげる議論を行い、各々において改善を図っている。第3回は学修に関するアンケート結果について把握し、各自の授業科目において改善を図ることを確認した。
				経済学部	全学では、西南フォーラムやファカルティ・リトリート、ラーニングサポートセンターによるFD研修等を実施し、全学的にFD活動の機会を提供している。 経済学部では、FD推進委員（3名）が、専任教員が参加するFD研究会を開催することで、教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善を図っている。 2024年度は「教学IR定型レポートに基づいた「学修成果」に関する情報共有」と題してFD研究会を開催し出席者は19名、2回目は「4年生以上の学生の学修状況とその課題」と題して開催し16名が参加した。2回目のFD研究会については、4年生の正課および正課外の学修実態の把握と分析、そして施策につなげることが提言された。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
基準 6 教員・ 教員組織	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	603 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	1.教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。	法学部	学部では、西南フォーラムやファカルティ・リトリート、ラーニングサポートセンターによるFD研修等を実施し、全学的にFD活動の機会を提供している。 法学部では、教授会の構成員の全員がFD委員であり、FD活動は組織的に行われている。2024年度は、2024年9月4日に、特に各種年内入試合格者に対する入学前教育の意義とあり方について意見交換をし、その重要性についての認識の共有が行われた。 また、基礎演習に関しては、Moodleに「法学部基礎演習担当者」コースを設け、第13回授業で実施する「合同ディベート大会」に向けて、①大会運営準備、および②共通基礎知識の涵養、基礎教育を支えるSA制度の活用方法の共有のため、授業開始前から継続的に情報交換を行っている。具体的には、①については、Moodle内での情報交換を踏まえ、大会モーションの決定ははじめ重要事項は「大会ミーティング」（6月12日）において決定した。②については、全クラスで、本学「法学基礎教育研究会」が発行している『法学部ゼミガイドブック』、および教員作成の「ルール説明会」動画を共通利用するほか、クラス内で出てきた疑問は随時Moodle上で共有し解決している。また、授業最後には「振り返りミーティング」を行った（7月24日）。
				児童教育学科	学部では、西南フォーラムやファカルティ・リトリート、ラーニングサポートセンターによるFD研修等を実施し、全学的にFD活動の機会を提供している。 人間科学部では、学部教授会構成員を対象にFD活動を行っている。実施時期は明確に決まっているわけではないが、年1～2回活動を行っている。このFDの内容を踏まえ、各教員において授業方法の開発及び改善につながるよう取り組んでいる。
				社会福祉学科	学部では、西南フォーラムやファカルティ・リトリート、ラーニングサポートセンターによるFD研修等を実施し、全学的にFD活動の機会を提供している。 人間科学部では、人間科学部全ての構成員で年間単位（年1～2回）で活動を行っている。社会福祉学科独自にFD委員会を組織したうえでの活動は行っていないが、毎月学科協議会（2024年度には15回開催）を開催し、教育課程や授業形態・方法などを含めて教員間で情報を共有し、そこでの課題については継続的な協議等も行なっている。これまで、3年次後期からの専門演習（ゼミ）の選考方法において、公平性等についての問題点が一部の学生や教員から指摘されていたが、昨年度の学科協議会ではこの問題が教員間で共有され、合計4回の継続協議が行われた。その結果、より公平な選考方法が検討され、来年度の専門演習からの適用となった。
				心理学科	学部では、西南フォーラムやファカルティ・リトリート、ラーニングサポートセンターによるFD研修等を実施し、全学的にFD活動の機会を提供している。 人間科学部では、毎年度1回以上のFD活動を行っており、2024年度は8月7日に「GPS-Academic」の受検結果報告書をもとに本学部・学科の学生の思考力等について考えるFD研修会が行われた。 心理学科では、学科主任が責任者となり、毎年1回以上のFD活動を学科協議会後に行っている。2024年度は4回にわたり、学科教員の教育方針（5月）、学生対応の在り方（11月）、生成AIの利活用（2月）、特色ある教育活動（3月）について情報共有および討議を行った。これらは、学生の質問に回答するSAを配置する機会や学生教育に生成AIの利活用を取り入れる機会となるなど、2025年度教育課程の内容や教育方法の改善につながっている。出席率も例年85%を下回ることなく推移している。

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
基準 6 教員・ 教員組織	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	603 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	1.教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。	国際文化学部	学部では、西南フォーラムやファカルティ・リトリート、ラーニングサポートセンターによるFD研修等を実施し、全学的にFD活動の機会を提供している。 国際文化学部では、毎年1回の国際文化談話会を実施しており、教員1名が研究発表を行い、教員同士が意見交換を行う場を設けている。この談話会は、各自の個人研究について議論する機会となっているだけでなく、他の教員による発表の内容・方法に触れることで、各教員が自らの研究や授業の内容・方法について、改善や開発を考える契機として位置づけられている。 また、国際文化学部FD委員会は、全6コースから1名ずつ選出される教員で構成されており、異なる研究分野に属する教員が協議しながら、学部の現状や課題を把握し、改善策を検討する場となっている。2024年度は、教学IR定型レポートや学修に関するアンケート集計結果を参照しながら、学部カリキュラムや、基幹科目（DPコア科目）における課題の量、講義内容の難易度に関する協議が行われ、今後の改善に向けた指針を立てることができた。 加えて、2024年度は学部組織の管理責任（学部主催・学部後援）のもとで、学部教員が全6件の授業外での文化事業（学術講演会やコンサート）に参画した。これらの活動は、教員の教育能力の向上や授業方法の開発及び改善に関する組織的な取り組みとして位置づけられる。
				大学全体 （研究科）	大学院学務部長、研究科長、専攻主任の10名で構成する大学院FD委員会を4回開催し、各研究科・専攻及び全研究科合同のFD活動に関する企画と運営を行っている。また、大学院学務部長、研究科長、専攻主任、各研究科において選出される2名の合計22名で構成する大学院研究科合同FD委員会を1回開催し、全研究科にわたってより一体的にFD活動に取り組んでいる。 ・大学院FD委員会 2024/4/1参加率100% 報告1．大学院入学者の推移について 報告2．2024年度の大学院の運営と活動に関して 報告3．2024年度大学院自己点検・評価シートの作成について 協議1．大学院入試の改革について ①進学者の確保による定員充足率の向上 ②横断型教育プログラム 2024/6/22参加率100% 協議1．アセスメントポリシーの運用について①学生数や修業年限修了率等 ②FACTBOOK資料 2024/9/26参加率100% 協議1．大学院学則第2条の目的について 協議2．大学院全体および各研究科の3つの方針の策定に関する基本的な考え方を記したガイドラインの制定について 協議3．大学院全体および各研究科の3つのポリシーの改正手続きについて 協議4．外国人入試における出願要件について 2024/11/30参加率100% 協議1．アセスメントポリシーの運用について①就職状況について ・大学院合同FD委員会 2025/1/24参加率90.4% 協議1．GPAデータについて
				法学研究科	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・法学研究科FD委員会 2024/5/8参加率77.4% 協議1．大学院自己点検・評価シートの作成について

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
基準 6 教員・ 教員組織	教 学 マ ネ ジ メ ン ト 委 員 会	603 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	1.教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。	経営学研究科	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・経営学研究科FD委員会 2024/4/10参加率95.8% 報告1．シラバスについて 報告2．大学院入学者の推移について 協議1．自己点検・評価シートの作成について 2024/7/31参加率83.3% 協議1．アセスメントポリシーの運用について 2024/12/11参加率87.5% 協議1．アセスメントポリシーの運用について 2025/2/22参加率70.8% 協議1．GPAデータについて ・各教員が作成したシラバスに対する研究科長のチェック・修正により、シラバス間の精粗が平準化され記述水準が向上した。入学者の低迷については税法免除科目の担当者不在の問題が共有された結果、新任者採用につながった。アセスメントポリシー及びGPAデータに関しては現状の情報共有を行うとともに、入学者増加と入学者の学力・研究能力担保の両立の難しさを再認識したうえで、2026年度入学者増加に向けた活動方針を議論した。
				外国語学研究科	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・外国語学（文学）研究科FD委員会 2024/4/17参加率77.3% 協議1．自己点検・評価シートの作成について ・文学研究科英文学専攻FD委員会（開催なし） ・文学研究科フランス文学専攻 2024/7/5参加率100% 協議1．入学者数と修業年限修了率について
				文学研究科 英文学専攻	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・外国語学（文学）研究科FD委員会 2024/4/17参加率77.3% 協議1．自己点検・評価シートの作成について ・文学研究科英文学専攻FD委員会（開催なし） ・文学研究科フランス文学専攻 2024/7/5参加率100% 協議1．入学者数と修業年限修了率について
				文学研究科 フランス文学専攻	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・外国語学（文学）研究科FD委員会 2024/4/17参加率77.3% 協議1．自己点検・評価シートの作成について ・文学研究科英文学専攻FD委員会（開催なし） ・文学研究科フランス文学専攻 2024/7/5参加率100% 協議1．入学者数と修業年限修了率について
				経済学研究科	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・経済学研究科FD委員会 2024/4/24参加率88% 協議1．大学院自己点検・評価シートの作成について 2024/7/24参加率92% 協議1．学生数・修業年限修了率等やFact Bookの紹介について

2025年度自己点検・評価シート
点検・評価年度（2024年度）基準4、基準6（点検・評価項目603-1のみ）

基準	所管	点検・評価項目	自己点検・評価 回答項目 （評価の視点）	部局等	現状説明 長所・特色や改善に向けた進捗（改善した事項、改善に向けて取り組んでいる事項）、問題点（学部等において課題として認識している事項）があれば、その内容も含めて記載してください。
基準6 教員・教員組織	教学マネジメント委員会	603 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	1.教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。	神学研究科	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・神学研究科FD委員会 2024/7/17参加率100% 協議1．神学研究科の現状と今後の課題と取り組みについて 定員充足率、並びに在籍者数・受験数の現状を把握して課題を共有し、今後の改善にむけて早急な検討が必要であるとの認識で一致した。 2024/9/5参加率71.4% 協議1．神学研究科の現状と今後の課題と取り組みについて ・人文学コースの位置づけとカリキュラム 入学者数を安定的に獲得するために、人文コース生に対する大学院受験を以前より意識的に進めるための対応が取られるべきである。そのために、神学コース生の課題も含めてカリキュラムの見直しを行う必要があることを確認し、実習に関しては変更した。 ・大学院の位置づけとカリキュラム 大学院全体としても内部進学者の獲得に向けてカリキュラムの再検討などの対応に迫られている。 ・教員後継者の養成 どのキリスト教派でも教員の後継者問題は喫緊の課題であり、我々の研究科教員は、我々で養成する覚悟で教育にあたるべきであることを確認し、検討を進めている。 2024/12/4参加率100% 協議1．神学研究科の課題の共有と今後について 現在の開講科目を整理し、人文コース生に特化した科目の開講を模索すべきである。研究科設置以前の学部卒業生に受験を勧めてみる。広報の充実が必要。大学院担当教員の養成も急務であることを確認し、現在対応中である。
				人間科学研究科 人間科学専攻	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・人間科学研究科FD委員会 2024/4/17参加率75% 協議1．本年度入学者数と入学者確保について 2024/7/24参加率78.1% 協議1．副指導院制度について 協議2．時間割について 協議3．教員と院生の交流について 2025/3/3 参加率 68.9% 協議 2022年6月29日（水）FD委員会の議事録に対する回答（学部修士5年一貫制度）および検討
				人間科学研究科 臨床心理学専攻	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・人間科学研究科FD委員会 2024/4/17参加率75% 協議1．本年度入学者数と入学者確保について 2024/7/24参加率78.1% 協議1．副指導院制度について 協議2．時間割について 協議3．教員と院生の交流について 2025/3/3 参加率 68.9% 協議 2022年6月29日（水）FD委員会の議事録に対する回答（学部修士5年一貫制度）および検討
				国際文化研究科	各研究科・専攻のFD委員会は、研究科・専攻により1回から4回開催した。 ・国際文化研究科FD委員会 2024/4/24参加率82.6% 協議1．2024年度自己点検・評価シートの作成について 2024/11/21参加率90% 協議1．2023年度在学生・修了生アンケート結果について 国際文化研究科では、年一回国際文化談話会を開催し、各教員の研究活動の現況について情報を交換するだけでなく、大学院生の研究指導を含めた教育活動の課題についても意見を交換し、研究科における授業や指導の方法の開発と改善に努めている。2024年度は、2025年3月3日に開催された。また、年二回程度研究科FD委員会を開催し、過年度の教育活動をふり返るとともに、研究指導や授業実施などをめぐる課題を共有するとともに、その解決へ向けた検討を進めている。2024年度は4月24日（参加率82.6%）と11月21日（参加率90%）にFD委員会を開催した。